

『三譯総解(第五)』ハンゲル表記満洲語文語索引*

王 海波
(嶺南師範学院)

キーワード: 『三譯総解』、ハンゲル表記、満洲語文語

1. はじめに

朝鮮時代の司譯院は、外交通訳を担うと同時に、外国語教育機関としても機能していた。ここには漢学・倭学・蒙学・女真学の四学が置かれ、満洲人の入関後には女真学が清学へと改められた。現存する清学書としては、読本類の『八歳兒』・『小兒論』・『三譯総解』・『清語老乞大』と、辞書類の『同文類解』・『漢清文鑑』が挙げられる(小倉 1914a: 44-45; 1914b: 257-262; Lie 1972: 19-21; 邵磊 2011: 290)。

清学書におけるハンゲル表記の満洲語文語は、必ずしも満洲文字で書かれた満洲語文語を一对一で転写したものではない。例えば、満洲語文語の CVwV (C=子音、V=単母音または二重母音) に相当する語形が、ハンゲル表記では1音節で書かれる場合もあれば、2音節で書かれる場合もある。また、満洲語文語の e に対応するハンゲル表記や io に対応するハンゲル表記などにも、それぞれ複数の対応形式が見られる。ハンゲル表記の満洲語文語は、満洲文字では表しきれない発音上の細部を、ある程度反映している可能性がある。清学書における満洲語文語の満洲文字表記とハンゲル表記の対応関係に関する研究としては、池上(1951; 1954; 1963)、今西(1958)、성백인(1984)、岸田(1989)、Ikegami(1990)、崔宰宇(1997)、菅野(2005)、邵磊(2011; 2016)、和田(2013)、王敵非(2013)、邵磊・多麗梅(2022; 2023)、邵磊・金龍軍(2022)、邵磊・林茶英(2022)、邵磊・王敵非(2022)、邵磊・任國俊(2023)などが挙げられる。

満洲文字とハンゲルの表記対応の問題を検討するには、ハンゲルで記された満洲語文語の語を、対応するメレンドルフ式転写にもとづいて配列し、整理する作業が有効であると考えられる。そこで本稿では、清学書『三譯総解』(全十巻)の第五巻(『三譯総解(第五): 黄蓋獻計破曹操』)にあるハンゲル表記の満洲語文語の語について、メレンドルフ式転写にもとづき索引を作成する。

2. ハンゲル表記満洲語文語の索引

次表は、清学書『三譯総解(第五)』におけるハンゲル表記の満洲語文語の語形を、メレンドルフ式転写のアルファベット順に配列したものである。

[1] 第1列には、満洲文字で書かれた語のローマ字転写(メレンドルフ式転写)と、その語の和訳を示している。和訳については、羽田(1937)、田村ほか(1966-1968)、福田(2008)等を参考にした。なお、和訳は原則として『三譯総解』中の文脈に限定した意味ではなく、一般的な語義に基づくものとする。

[2] 第1列の動詞については、原則として未完了形とその和訳を記載している。ただし、『三譯総解』における記録が未完了形以外の形式である場合には、第1列に未完了形と和訳を示すとともに、その下の行には、対応する語形を併記している。

* 本稿は、中国国家社会科学基金後期資助項目「満語支語言音系学研究」(課題番号 22FMZB009)の助成を受けた研究成果の一部である。

[3] 第2列には、『三譯総解』に見られるハングル表記の満洲語文語の語形を示している。
 [4] 第3列は、当該語形が『三譯総解』原書のどこに出現しているかを示したものである。たとえば「(5-1a-2-3)」は「第5巻-第1葉a面-第2行-第3語」を表す。「第X語」とは、ハングル表記の満洲語文語のみを対象に順に計数した場合のX番目に現れる語を指す(ハングル表記の満洲語文語以外の語は計数から除外する)。

表1:『三譯総解(第五)』ハングル表記満洲語文語索引

メンドルフ式転写と和訳	ハングル表記	出現箇所
abka 「空」	압카	(5-8a-1-4)
acambi 「会う ; 合う」	아참비	(5-15b-3-2)
acaha	아차하	(5-20b-4-4)
acahabi	아차하비	(5-3a-5-6)
acambihe	아참비허	(5-16b-5-7)
acanambi 「会いに行く ; 合っている」	---	---
acanafi	아차나피	(5-21a-1-7)
acanaha	아차나하	(5-9b-3-5)
adali 「同様」	아다리	(5-1b-3-4)
adarama 「如何に」	아다라머	(5-8a-2-2) (5-20a-2-5) (5-20b-3-2) (5-22a-1-1) (5-24a-5-2)
afambi 「攻める、戦う」	---	---
afacibe	아파치버	(5-2a-2-1)
afara	아파라	(5-22b-1-4)
afarakū	아파라쿠	(5-10a-3-5)
agu 「老兄」	아구	(5-11a-6-2)
agūra 「豹尾槍(槍の一種) ; 兵器 ; 機械」	아구라	(5-13b-3-4)
ahūn 「兄」	아훈	(5-4a-3-2) (5-6a-3-2) (5-7b-4-4)
ai 「何 ; 何の」	애	(5-8a-6-3) (5-9a-5-6) (5-14b-1-1) (5-15b-4-9) (5-18a-1-5) (5-19b-6-2) (5-21a-3-5)
aibide 「どこに」	애비더	(5-15a-4-8)
aika 「もし ; もしかしたら」	애카	(5-4a-5-2)
aikabade 「もし」	애카바더	(5-13a-6-2) (5-14a-2-1) (5-18a-4-2) (5-20b-3-5) ¹
ainambi 「何をする、どうする」	---	---
ainaha	애나하	(5-2a-3-1) (5-10b-6-1)
ainu 「なぜ」	애누	(5-1b-6-2) (5-4b-4-7) (5-7b-6-1) (5-10a-3-1) (5-19b-2-1) (5-19b-4-1) (5-20a-1-2) (5-20a-6-1)
aisi 「利」	애시	(5-16a-5-7)
aisin 「金」	애신	(5-6a-6-1)

¹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

ajige 「小さい」	아지거	(5-5a-2-3) (5-5b-2-4)
akdambi 「信頼する」	악담비	(5-10b-6-2)
akdarakū	악다라쿠	(5-2a-3-3)
akū 「無い」	아쿠	(5-1b-4-4) (5-6a-3-6) (5-8a-3-4) (5-8a-5-5) (5-10b-2-5) (5-11a-4-5) (5-11b-3-8) (5-15b-5-5) (5-16a-5-8) (5-18a-1-7) (5-18b-6-1) (5-19a-5-2) (5-22b-3-6) (5-23b-2-5) (5-23b-5-1) (5-24a-1-3) (5-24b-4-3) (5-25a-1-3)
alambi 「告げる」	아람비	(5-24a-2-1)
ala	아라	(5-20b-6-5)
alafi	아라피	(5-17b-4-4)
alaha	아라하	(5-6a-2-5)
alarangge	아라랑거	(5-25a-2-3)
alanabumbi 「告げに行かせる」	---	---
alanabuki	아라나부키	(5-9a-4-4) (5-10a-6-6)
alanambi 「告げに行く」	---	---
alanaha	아라나하	(5-8a-4-2)
alanjimbi 「告げに来る」	---	---
alanjime	아란지머	(5-5b-1-3) (5-23a-3-1)
alanju	아란쥬	(5-4a-6-1)
alimbi 「受ける ; 引き受ける」	---	---
alime	아리머	(5-7a-6-3) (5-24b-3-6)
ališambi 「悶える」	---	---
ališame	아리샤머	(5-2a-6-7)
aljambi 「離れる ; 顔色を変える」 (angga aljambi 「約束する」)	---	---
aljafi	알자피	(5-13b-5-6)
amargi 「北 ; 後ろ」	아말기	(5-5b-1-6)
amasi 「後ろに」	아마시	(5-13b-4-1)
amba 「大きい」	암바	(5-2b-4-1) (5-8b-4-1)
amban 「大臣 ; 大きい」	암반	(5-15b-2-9)
ambula 「多い ; 大いに」	암부라	(5-1b-1-6) ² (5-2a-6-3) (5-5b-6-2) (5-8a-5-1) (5-8a-6-5) (5-11b-6-4) (5-13b-5-7) (5-15a-6-1)
amhambi 「寝る」	---	---
amharakū	암하라쿠	(5-5a-5-6)
anambi 「押す」	---	---
aname	아나머	(5-17a-4-4)

² 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

andande 「瞬時に」	안단더	(5-13b-5-4) ³
angga 「口」	앙가	(5-5b-3-1)
aniya 「年」	아냐	(5-12a-6-5)
antaha 「客」	안타하	(5-19b-1-1)
arambi 「作る；書く；～のふりをする」	아람비	(5-18a-4-6)
ara	아라	(5-7a-5-2)
araci	아라치	(5-16a-5-1) (5-16b-3-2)
arafi	아라피	(5-19a-3-5)
arbušambi 「振舞う」	---	---
arbušara	알부샤라	(5-24a-6-7)
arga 「方法；計略」	알가	(5-1b-3-2) (5-2a-2-4) (5-2b-3-6) (5-3a-6-8) (5-5a-6-2) (5-6b-5-3) ⁴ (5-8b-3-1) (5-9a-3-3) (5-9a-3-5) (5-9b-5-4) (5-10b-1-4) (5-10b-4-1) (5-11a-6-4) (5-20a-5-2) (5-22a-2-6) (5-22a-5-1) (5-24a-3-5) (5-24b-4-7)
argadambi 「計略を用いる」	---	---
argadarakū	알가다라쿠	(5-20b-2-1)
aššambi 「動く」	---	---
aššara	아샤샤라 ⁵	(5-24a-6-6) ⁶
ba 「所；里(距離単位)」	바	(5-1b-4-3) (5-11a-4-4) (5-11b-3-7) (5-12a-4-3) (5-24b-4-2) (5-25a-1-2)
bahambi 「得る」	---	---
bahafi	바하피	(5-24a-5-3)
baharengge ⁷	바하렁거	(5-2b-5-2)
baimbi 「探す；求める」	---	---
baime	배머	(5-16a-4-1)
baire	배리	(5-17a-3-3) (5-17b-5-5) ⁸
baitalambi	배타람비	(5-2b-3-8)
baitalafi	배타라피	(5-10a-3-4) (5-11a-2-2) (5-22a-5-3) (5-22b-1-3)
baitalahangge	배타라항거	(5-9a-3-6)
baitalara	배타라라	(5-8b-2-8)
bakcilambi 「向かい合う；敵対する」	---	---

³ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「안단더」が「아단더」のように見えるが、本来は「안단더」と書かれていたものと考えられる。

⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁵ 王海波 (2026b: 4) の脚注 3 を参照されたい。

⁶ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁷ 母音調和に従えば、baharengge ではなく、baharangge のはずである。しかし、『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも baharengge に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 187) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも baharangge である。

⁸ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

bakcilafi	박치라피	(5-10a-1-6) ⁹
bakcilaha	박치라하	(5-14a-6-1)
bakcilame	박치라머	(5-23a-5-2)
balai 「みだりに」	바래	(5-15b-5-6)
baniha 「感謝」	바니하	(5-6b-4-8) (5-11a-5-5)
banjimbi 「暮らす；生む；生まれる」	---	---
banjifi	반지피	(5-13b-6-2) (5-15a-6-3)
bargiyambi 「収める」	---	---
bargiyame	발가머	(5-12b-5-2)
baru 「～に向かって」	바루	(5-5a-4-1)
bata 「敵」	바타	(5-12b-5-3) (5-13a-5-4)
be 「私たち(除外的)」	버	(5-19a-4-1)
be 「を」	버	(5-1a-3-3) (5-1a-5-5) (5-2a-1-3) (5-2a-2-5) (5-2b-3-7) (5-2b-6-5) (5-3a-3-2) (5-3b-1-1) (5-3b-2-4) (5-3b-5-3) (5-4a-1-6) (5-4a-3-6) (5-4b-1-2) (5-4b-2-4) (5-5a-1-6) (5-5a-3-4) ¹⁰ (5-5a-6-3) (5-6a-6-3) (5-6b-6-5) ¹¹ (5-7a-3-6) (5-7a-6-2) (5-7b-4-5) (5-7b-5-6) (5-8a-2-1) (5-8b-3-2) (5-9a-1-1) (5-9a-1-6) (5-9a-4-2) (5-10a-3-3) (5-10a-6-1) (5-10a-6-5) (5-10b-2-1) (5-10b-4-2) (5-10b-4-4) (5-10b-5-5) (5-11a-6-5) (5-11b-6-3) (5-12a-3-5) (5-12b-1-7) (5-12b-5-4) (5-13a-5-5) (5-13b-2-6) (5-13b-3-2) ¹² (5-13b-3-5) (5-13b-3-8) (5-14a-1-5) (5-14a-4-4) (5-14b-1-7) (5-14b-3-7) (5-14b-5-6) (5-14b-6-5) ¹³ (5-15a-3-2) (5-15b-4-5) (5-15b-6-1) (5-16a-1-5) (5-16a-2-3) (5-16a-6-4) (5-16b-1-6) (5-16b-2-2) (5-16b-4-7) (5-16b-5-5) (5-17a-1-5) (5-17a-2-2) (5-17a-4-3) (5-17a-5-3) (5-17a-6-5) (5-17b-1-3) (5-17b-5-4) (5-18a-1-1) (5-18a-3-5) (5-18b-1-1) (5-19a-3-3) (5-19b-1-4) (5-19b-5-7) (5-20a-1-5) (5-20a-4-3) (5-20b-1-4) (5-20b-3-1) (5-20b-4-7) (5-21a-4-3) (5-21b-4-1) (5-22a-2-4) (5-22a-3-2) (5-22a-4-4) (5-22a-5-2) (5-22a-5-5) (5-22b-1-2) (5-22b-3-1) (5-23a-6-8) (5-23b-

⁹ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「박치라피」が「박지라피」のように見えるが、本来は「박치라피」と書かれていたものと考えられる。

¹⁰ 原書における満洲文字表記の be は通常「」であるが、当該箇所における満洲文字表記は「」であり、尻尾の部分が見えない。

¹¹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

¹² 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

¹³ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

		6-5) (5-24a-1-6) (5-24a-6-8) (5-24b-1-4) (5-24b-3-5) (5-24b-5-1) (5-24b-5-5) (5-25a-2-7) (5-25a-6-1)
bederebumbi 「返す」	---	---
bederebufi	버드러부피	(5-17a-5-5)
bederembi 「戻る、帰る、退く」	---	---
bederefi	버드러피	(5-21a-1-3)
bedereme	버드러머	(5-19a-1-3)
belhembu 「準備する」	---	---
belheme	벌허머	(5-12b-3-7) ¹⁴
benembi 「送る」	---	---
benekini	버너키니	(5-25a-3-1)
bengnabumbi 「慌てふためかせる」	---	---
bengnabume 「たるませて」 15	병나부머	(5-14b-2-1)
beye 「体 ; 自分」	버여	(5-10b-5-4)
bi 「私」	비	(5-2a-1-1) (5-10a-4-4) (5-10b-3-4) (5-11b-3-1) (5-13b-6-4) (5-15a-2-4) (5-19b-5-1) (5-20a-5-4) (5-23b-4-1) (5-24b-2-4)
bi 「ある ; いる」	비	(5-4b-4-6) (5-9a-5-7) (5-9b-5-5) (5-23b-3-5)
bici	비치	(5-4a-5-4) (5-16b-5-2)
bifi	비피	(5-2b-3-3)
bihe	비허	(5-14a-3-6) (5-15a-5-1) (5-16b-5-1)
bihebi	비허비	(5-12a-2-3)
bihede	비허더	(5-14a-3-2)
bikai	비캐	(5-25a-5-1) ¹⁶
bime	비머	(5-19b-1-2)
bisire	비시러	(5-2b-1-1) (5-23b-6-4)
bibumbi 「留める」	비븨비	(5-8a-2-3)
bibufi	비부피	(5-10a-6-3)
bithe 「本 ; 字 ; 学識」	빈허	(5-25a-2-6)
biya 「月」	바	(5-12b-1-3) (5-12b-3-1) (5-13a-4-6) (5-13b-1-2)

¹⁴ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「벌허머」が「벌허머」のように見えるが、本来は「벌허머」と書かれていたものと考えられる。

¹⁵ 『大清全書』には見出し語 *bengnebumbi-re* 「使他倉卒無措。」が収録されている。一方、『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、*bengnabume* に対応する形で現れている。岸田 (1997: 197) によれば、『満洲三國志』および『満漢合璧三國志』では、対応箇所における語形はいずれも *bengnebume* である。なお、*bengnabume* に対応する『三譯総解』原書の朝鮮語訳は「프리지게허여」である。岸田 (1997: 198) は「프리지게허여」を「ゆるむようにして」と和訳しており、また、岸田 (1997: 84, 197) は *bengnabume* を「たるませるために」と和訳している。すなわち、『三譯総解』の当該箇所における *bengnabu-* は「ゆるむようにする、たるませる」を意味する。それに対し、『大清全書』における *bengnebumbi* の漢訳は「使他倉卒無措。」である。

¹⁶ 原書の当該箇所における満洲語文語の満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、印刷が不鮮明である。

biyai 「月の」	배	(5-13a-3-3)
bodohon 「謀、計略」 ¹⁷	보도훈	(5-9a-6-5)
bodombi 「考える ; 計算する」	보돔비	(5-24b-1-5)
bodoci	보도치	(5-2a-1-4) (5-3a-4-1) (5-3a-6-2)
bodome	보도머	(5-14a-1-7)
bodoro	보도로	(5-5a-6-4)
boihon 「土」	뵈흔	(5-11a-3-4)
boo 「家 ; 部屋」	보	(5-1b-5-5)
boode 「家/部屋に ; 家/部屋で」	보더	(5-4a-2-1) (5-18a-5-4) (5-18b-3-2) (5-21a-2-2) (5-22b-5-1)
bu 「漢語布」 (jang dzy bu 「張子布」)	부	(5-13b-2-3)
bucembi 「死ぬ」	---	---
bucehe	부쳐히	(5-11b-3-2)
bumbi 「与える」	---	---
bufi	부피	(5-6a-6-6) (5-6b-5-1) (5-11a-5-6)
bure	부리	(5-4b-2-2)
buya 「小さい ; 気が小さい ; 下賤の」	부야	(5-4a-3-4)
buyembi 「愛する ; 願う」	부염비	(5-10b-4-5)
cacari 「天幕」	차차리	(5-6a-1-1) (5-11b-6-7)
cenghiyang 「漢語丞相」	청향	(5-3b-5-1) (5-4b-5-2)
ceni 「彼らの ; 彼女たちの」	쳐니	(5-6b-5-2) ¹⁸
ci 「より」	치	(5-5b-2-1) (5-19b-5-10)
cihai 「任意に」	치해	(5-2a-4-1)
cihalambi 「好む ; 隙を狙う」	---	---
cihalafi	치하라피	(5-11a-6-6)
cimari 「明日 ; 朝」	치마리	(5-5a-5-4)
cira 「顔、顔色」	치라	(5-7b-3-4) (5-13b-5-5)
cohome 「特に」	초호머	(5-5b-4-10) (5-6a-5-1) ¹⁹ (5-10a-6-2) (5-23a-3-5)
cooha	초하	(5-2b-5-4) (5-3a-6-3) (5-4a-3-5) (5-5a-1-5) (5-5a-5-7) (5-6b-2-7) (5-9a-5-1) (5-9b-2-6) (5-14a-5-5) (5-14b-1-4) (5-16a-5-5) (5-23a-2-3) (5-23b-4-2)
cuwan 「漢語船」	촨	(5-5a-2-4) (5-5b-2-5) (5-12b-2-4) (5-19a-1-6)

¹⁷ 岸田 (1997: 193) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも bodogon である。なお、『三譯総解』の他の箇所に見られる bodohon に対応する『満文三国志』・『満漢合璧三国志』の語形および清代辞書における出現例については、岸田 (1997: 84-85) および王海波 (2026b: 8) を参照されたい。

¹⁸ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

¹⁹ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「초호머」が「초호머」のように見えるが、本来は「초호머」と書かれていたものと考えられる。

daci 「もとより」	다치	(5-11a-1-8) (5-15a-2-5) (5-23b-5-6)
dahabumbi 「投降を受け入れる ; 従わせる」	---	---
dahaburengge	다하부렁거	(5-22a-4-1)
dahambi 「従う ; 投降する」	---	---
daha (命令)	다하	(5-4a-5-1)
dahacina	다하치나	(5-13b-4-3)
dahafi	다하피	(5-13b-2-7)
dahaha	다하하	(5-3a-1-6) ²⁰
dahahangge	다하항거	(5-9a-1-4) (5-10a-5-7)
dahaki	다하키	(5-14a-2-3)
dahame	다하머	(5-5a-3-5) (5-5b-5-1) (5-6a-5-2) (5-7a-2-3) (5-7b-2-4) (5-8a-5-6) (5-15a-3-3)
dahara	다하라	(5-10b-1-3) (5-25a-2-5)
dalibumbi 「遮蔽させる ; 遮蔽される」	---	---
dalibufi	다리부피	(5-2b-4-4) (5-8b-4-3)
dalin 「岸」	다린	(5-5a-3-8)
damu 「もっぱら ; ただ ; かし」	다무	(5-7a-4-4) (5-10b-1-1) (5-13a-3-1) (5-13b-1-6) (5-16a-5-4) (5-20b-5-4) (5-23a-1-4) (5-23b-5-2) (5-25a-5-2)
de 「に ; で」	더	(5-1a-2-4) (5-1a-3-1) (5-1a-6-2) (5-2b-1-2) (5-2b-2-6) (5-2b-4-3) (5-3a-1-5) ²¹ (5-3a-2-4) (5-3a-5-5) (5-3b-5-6) (5-4a-4-4) (5-4b-1-4) (5-4b-4-5) (5-5a-2-5) (5-5a-6-5) (5-5b-1-2) (5-5b-3-2) (5-6a-3-3) (5-6b-5-4) (5-8a-4-1) (5-9a-3-4) (5-9a-5-5) (5-9b-2-7) (5-9b-3-4) (5-11a-3-5) (5-11a-6-8) (5-13b-1-3) ²² (5-14a-6-2) (5-15a-3-6) (5-16a-5-6) (5-17a-3-4) (5-17b-1-6) (5-17b-3-6) (5-18b-1-4) (5-19a-1-7) (5-19a-3-7) (5-19b-1-6) (5-19b-6-4) ²³ (5-20b-4-3) (5-20b-4-5) (5-21a-1-6) (5-22b-1-5) (5-23a-2-2) (5-23b-2-2) (5-23b-5-5)
dedubumbi 「寝かせる ; 横向きに置く ; 発酵させる」	---	---
dedubufi	더두부피	(5-17a-1-2)
dedubuhe	더두부허	(5-18b-3-4)
dedubume	더두부머	(5-17b-1-7)

²⁰ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

²¹ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「더」が「디」のように見えるが、本来は「더」と書かれていたものと考えられる。

²² 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

²³ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「더」が「너」のように見えるが、本来は「더」と書かれていたものと考えられる。

dedumbi 「横になる」	---	---
deduhebi	더두허비	(5-22b-5-2)
den 「高い」	던	(5-15a-1-4)
deo 「弟」	도	(5-4a-3-3) (5-5b-4-5)
dere 「顔 ; 机 ; 方」	더리	(5-13b-3-7) (5-14a-4-3) (5-16b-4-6) (5-17a-4-2)
dere 「～であろう」	드리	(5-9b-5-6)
dergi 「上 ; 東」	덜기	(5-2b-2-5) (5-3a-1-2) (5-3b-5-7) (5-4a-4-1) (5-6a-6-8) (5-11b-1-3) (5-15a-3-4) (5-15b-2-4)
deribumbi 「始める」	---	---
deribufi	더리부피	(5-24b-5-2)
deribuhe	더리부허	(5-24a-3-4)
dobori 「夜」	도보리	(5-4a-1-3) (5-9b-4-7)
dolo 「内 ; 心中 ; 腹中」	도로	(5-2a-6-6) (5-2b-6-2) (5-3a-6-5) (5-9a-5-3) (5-23b-4-3)
dolori 「内側 ; 心密かに」	도로리	(5-21a-6-6) (5-22b-3-2)
dombi 「川を渡る」	---	---
dome ²⁴	도머	(5-7a-3-3) (5-19b-5-8)
dorgi 「内」	돌기	(5-3a-2-3)
dosimbi 「入る ; 進む ; 進撃する」	---	---
dosifi	도시피	(5-2b-2-1) (5-9b-3-1)
dosika	도시카	(5-6b-5-5) (5-18a-6-1)
dosire	도시러	(5-5a-6-1)
dosimbumbi 「入れる」	---	---
dosimbufi	도심부피	(5-4a-2-2) (5-23a-5-1)
dosimbuha	도심부하	(5-21a-2-4)
dudu 「漢語都督」	두두	(5-2a-3-4) (5-13a-1-2) ²⁵ (5-16a-6-2) (5-21b-3-7) (5-23b-2-3)
dulimbai 「中央の」	두림배	(5-9b-2-5)
dumbi 「打つ」 ²⁶	---	---
dume	두머	(5-11b-5-4)

²⁴ 語基形 do- 「川を渡る」については、王海波 (2026c: 50) の脚注 14 を参照されたい。

²⁵ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

²⁶ 当該動詞語幹は、tū- と du- の両綴りが存在する (池上 1955: 457)。『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも dume に対応する形で現れている。

dze 「漢語沢」 ²⁷ (g'an dze 「闕沢」)	沢	(5-23b-1-4) (5-24a-2-3) (5-24a-6-1) (5-25a-1-5)
--	---	---

²⁷『三譯総解』において「闕澤」は45例出現しているが、いずれも g'an dze の形で現れている。なお、岸田 (1997: 89, 205ff.) によれば、『満文三国志』では対応箇所における語形はいずれも k'an dze であり、『満漢合璧三国志』では対応箇所における語形は多くが k'an dze であるが、一部に k'an ts'e, k'an ts'y, k'an se も見られる (本稿ではメレンドルフ式転写の ts' はそのまま用いるが、同転写法の ts は ts'y と表記する)。『三譯総解』・『満漢合璧三国志』における「闕澤」の形式は、次表のとおり整理できる。なお、表中の『満漢合璧三国志』の範囲は、『三譯総解』に対応する部分のみに限る。次表では、「闕澤」の「澤」が満洲文字表記で ts'e と表記される箇所を薄い網掛け、ts'y, se と表記される箇所を濃い網掛けで示した。

表2: 『三譯総解』・『満漢合璧三国志』における「闕澤」の満洲文字表記の出現箇所

	岸田対校表番号	三譯総解	満漢合璧三国志
[1]	389	g'an dze (5-23b-1-3/4)	k'an dze (10-23a-2-9/10)
[2]	395	g'an dze (5-24a-2-2/3)	k'an dze (10-23a-6-4/5)
[3]	397	g'an dze (5-24a-5-5/-6-1)	k'an dze (10-23a-7-11/12)
[4]	400	g'an dze (5-25a-1-4/5)	k'an dze (10-23b-5-2/3)
[5]	401	g'an dze (6-1a-2-1/2)	k'an dze (10-24a-2-1/2)
[6]	408	g'an dze (6-2a-5-1/2)	k'an dze (10-24b-2-9/10)
[7]	409	g'an dze (6-2b-5-1/2)	k'an dze (10-24b-5-10/11)
[8]	411	g'an dze (6-3a-2-4/5)	k'an dze (10-24b-7-5/6)
[9]	412	g'an dze (6-3a-5-5/6)	k'an dze (10-25a-1-10/11)
[10]	414	g'an dze (6-4a-2-5/-3-1)	k'an dze (10-25a-6-1/2)
[11]	416	g'an dze (6-4a-4-4/5)	k'an dze (10-25a-6-1/2)
[12]	419	g'an dze (6-5a-3-4/5)	k'an dze (10-25b-5-2/3)
[13]	420	g'an dze (6-5b-1-1/2)	k'an dze (10-25b-6-13/14)
[14]	423	g'an dze (6-6a-5-4/5)	k'an dze (10-26a-4-10/11)
[15]	429	g'an dze (6-7b-1-3/4)	k'an dze (10-26b-4-12/13)
[16]	442	g'an dze (6-11b-4-5/6)	k'an dze (10-28b-3-3/4)
[17]	444	g'an dze (6-11b-5-3/4)	k'an dze (10-28b-3-8/9)
[18]	447	g'an dze (6-12a-4-3/4)	k'an dze (10-28b-5-11/12)
[19]	450	g'an dze (6-12b-2-2/3)	k'an dze (10-28b-7-7/8)
[20]	452	g'an dze (6-13a-2-3/4)	k'an ts'e (10-29a-3-8/9)
[21]	455	g'an dze (6-13b-4-2/3)	k'an ts'e (10-29a-7-6/7)
[22]	459	g'an dze (6-14a-6-2/3)	k'an ts'e (10-29b-4-3/4)
[23]	462	g'an dze (6-15a-1-5/6)	k'an ts'y (10-29b-7-9/10)
[24]	463	g'an dze (6-15a-6-1/2)	k'an ts'e (10-30a-2-12/-3-1)
[25]	467	g'an dze (6-16b-1-1/2)	k'an ts'e (10-30b-3-1/2)
[26]	473	g'an dze (6-17a-3-3/4)	k'an dze (10-30b-7-3/4)
[27]	475	g'an dze (6-17b-6-1/2)	k'an dze (10-31a-4-5/6)
[28]	483	g'an dze (6-18b-3-2/3)	k'an dze (10-31b-2-2/3)
[29]	484	g'an dze (6-19a-2-4/-3-1)	k'an dze (10-31b-5-1/2)
[30]	485	g'an dze (6-19b-2-5/6)	k'an dze (10-31b-7-9/10)
[31]	488	g'an dze (6-20a-4-1/2)	k'an dze (10-32a-4-5/6)
[32]	490	g'an dze (6-20b-2-1/2)	k'an dze (10-32a-6-7/8)
[33]	492	g'an dze (6-20b-4-1/2)	k'an dze (10-32a-7-10/11)
[34]	496	g'an dze (6-21a-3-5/6)	k'an dze (10-32b-3-5/6)
[35]	497	g'an dze i (6-21a-4-7/-5-1/2)	k'an dzei (10-32b-4-2/3)
[36]	499	g'an dze (6-22a-1-1/2)	k'an dze (10-33a-1-3/4)
[37]	501	g'an dze (6-22a-4-5/6)	k'an dze (10-33a-2-13/-3-1)
[38]	505	g'an dze (6-22b-2-4/5)	k'an ts'e (10-33a-4-12/-5-1)
[39]	506	g'an dze (6-22b-6-1/2)	k'an se (10-33a-6-11/12)
[40]	511	g'an dze (6-24a-2-2/3)	k'an ts'e (10-33b-6-9/10)
[41]	512	g'an dze (6-24a-6-1/2)	k'an dze (10-34a-1-6/7)
[42]	516	g'an dze (6-25a-3-1/2)	当該語なし
[43]	518	g'an dze (6-25b-1-1/2)	k'an se (10-34a-7-10/11)
[44]	521	g'an dze (7-1a-5-5/6)	k'an dze (10-35a-1-2/3)
[45]	614	g'an dze (7-23a-2-4/5)	k'an dze (10-43b-6-11/12)

dzung 「漢語中」 ²⁸ (ts'ai dzung 「蔡中」)	중	(5-3b-3-6) (5-5b-4-7) (5-6b-4-2) (5-8b-6-3) (5-10a-5-2)
dzy 「漢語子」 (dzy jing 「子敬」) (jang dzy bu 「張子布」)	즈	(5-8b-2-3) (5-19b-3-4) (5-20a-2-3) (5-13b-2-2)
ebsi 「～以来；こちらへ」	업시	(5-19b-6-1)
ede 「これに因り」	어더	(5-22a-6-4)
edun 「風」	어둔	(5-5a-3-1)
efulembi 「壊す；鹹す」	어푸럼비	(5-15b-6-2) (5-24b-5-6)
efulehe	어푸러히	(5-16b-2-3)
efuleme	어푸러머	(5-12a-5-3) (5-19a-5-4)
efulerengge	어푸러렁거	(5-13a-5-6)
efulererakū ²⁹	어푸러러라쿠	(5-13b-1-4) ³⁰
eiterembi 「欺く」	에터럼비	(5-19b-4-2)
eiterehe	에터러히	(5-20a-1-1)
ejembi 「書き記す；記憶する」	---	---
ejefi	어저피	(5-16b-1-8)

²⁸ 岸田 (1997: 90) は、「蔡中」が『三譯総解』中に全 13 例現れ、いずれも語形が ts'ai dzung であると述べている。しかし、筆者の確認によれば、「蔡中」は『三譯総解』中に全 16 例現れている。次表は、その 16 例の『三譯総解』における出現箇所および『満漢合璧三国志』における対応語の出現箇所を示したものである。表中の『満漢合璧三国志』の範囲は、『三譯総解』に対応する部分のみに限る。

また、岸田の対校表 (岸田 1997: 154-263) には、『三譯総解』・『満文三国志』・『満漢合璧三国志』の三者間における差異のみを指摘するものであり、三者が一致している箇所については扱っていない。次表には、そのうち「蔡中」に関する 11 例が含まれる。一方、岸田 (1997: 90) が言及する「蔡中」の「13 例」はこれに限定されるものではなく、三者が一致している例も含まれている。しかし実際には、前述のとおり、「蔡中」の出現例は 13 例ではなく 16 例である。

なお、次表では、「蔡中」の「中」が満洲文字表記で ts'ung となっている箇所を網掛けで示した。

表 3: 『三譯総解』・『満漢合璧三国志』における「蔡中」の満洲文字表記の出現箇所

	岸田対校表番号	『三譯総解』	『満漢合璧三国志』
[1]	275	ts'ai dzung (5-3b-3-5/6)	ts'ai dzung (10-14a-4-8/9)
[2]	285	ts'ai dzung (5-5b-4-6/7)	ts'ai ts'ung (10-15a-3-7/8)
[3]	292	ts'ai dzung (5-6b-4-1/2)	ts'ai ts'ung (10-15b-2-6/7)
[4]	305	ts'ai dzung (5-8b-6-2/3)	ts'ai ts'ung (10-16b-4-11/-5-1)
[5]	311	ts'ai dzung (5-10a-5-1/2)	ts'ai ts'ung (10-17a-7-4/5)
[6]	476	ts'ai dzung (6-17b-6-6/-18a-1-1)	ts'ai ts'ung (10-31a-5-1/2)
[7]	---	ts'ai dzung (6-20a-5-4/5)	ts'ai dzung (10-32a-5-4/5)
[8]	495	ts'ai dzung (6-21a-2-5/6)	dzai dzung (10-32b-2-9/10)
[9]	500	ts'ai dzung (6-22a-4-1/2)	ts'ai ts'ung (10-33a-2-9/10)
[10]	---	ts'ai dzung (6-22b-4-1/2)	ts'ai dzung (10-33a-5-11/12)
[11]	509	ts'ai dzung (6-23a-5-1/2)	ts'ai ts'ung (10-33b-2-2/3)
[12]	---	ts'ai dzung (6-24a-3-3/4)	ts'ai dzung (10-33b-7-4/5)
[13]	---	ts'ai dzung (6-24a-4-1/2)	ts'ai dzung (10-33b-7-11/12)
[14]	515	ts'ai dzung (6-25a-1-2/3)	ts'ai ts'ung (10-34a-5-7/8)
[15]	---	ts'ai dzung (6-25a-4-1/2)	ts'ai dzung (10-34a-6-4/5)
[16]	546	ts'ai dzung (7-6a-3-3/4)	ts'ai dzung (10-36b-7-6/7)

²⁹ 当該箇所の満洲文字表記とハングル表記はいずれも efulererakū に対応する形で現れている。efulerakū の誤記であると考えられる。

³⁰ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記「어푸러러라쿠」のうち、「라」の印刷が不鮮明である。対応する満洲文字表記 efulererakū のうち、f の印刷が不鮮明である。

ejen 「君主；主」	어전	(5-14a-1-2)
emdubei 「ひたすら」	엄두베	(5-18b-2-3)
emgi 「一緒に」	엄기	(5-6b-2-3) (5-19b-5-5)
emu 「一」	어무	(5-1a-4-5) (5-1b-1-2) (5-1b-3-3) (5-5a-2-1) (5-6b-2-4) (5-10b-2-3) (5-12a-5-1) (5-19b-2-2) (5-23b-4-5)
enenggi 「今日」	어녕기	(5-19a-2-4) (5-20a-3-2) (5-21a-3-4) (5-22a-2-1)
erdemu 「才徳」	얼더무	(5-22b-2-6)
ere 「この；これ；この人」	어리	(5-2a-2-3) (5-3a-6-7) (5-4a-6-2) (5-7a-1-4) (5-7b-1-6) (5-9a-6-4) (5-10b-3-5) (5-11a-6-3) (5-13b-1-1) (5-14b-2-2) (5-20a-1-3) (5-21b-5-5) (5-24b-4-6) (5-25a-4-6)
erei 「この人の」	어래	(5-16b-1-4)
ergi 「方向」	얼기	(5-14b-5-4) (5-16a-1-3) (5-16b-6-3) (5-23a-6-6)
esukiyembi 「叱り飛ばす」	---	---
esukiyeme	어수켜머	(5-14b-5-1) (5-15a-6-4) (5-15b-4-6) (5-16a-1-6) (5-17a-5-4) (5-17b-2-5) (5-23a-6-3)
etembi 「勝つ」	어텀비	(5-22b-1-7)
etuku 「服」	어투쿠	(5-17b-1-2)
eyembi 「流れる；目方が足りない」	어염비	(5-18b-2-4)
facambi 「解散する；宴席から退出する；糸や麻が散乱する」	---	---
facahabi	파차하비	(5-2a-5-1)
fafun 「法律；法度；伝令」	파푼	(5-15b-5-9)
fahūn 「肝臓」	파훈	(5-11a-3-2)
faidambi 「整列する、並ぶ」	---	---
faidahabi	패다하비	(5-12a-1-2)
faitambi 「裁つ；俸給を削る」	---	---
faitaci	패타치	(5-16b-5-6)
falanggū 「掌」	파랑구	(5-1a-2-7) (5-1a-5-3)
farambi 「気絶する」	---	---
faraka ³¹	파라카	(5-18b-4-4)
fe 「古い」	퍼	(5-15b-2-8)
fejergi 「下」	퍼절기	(5-8a-1-6) (5-19a-4-5)
fejile 「下(に)」	퍼지러	(5-6a-1-2) (5-12a-1-1)

³¹『大清全書』と『増訂清文鑑』では、当該動詞語幹 fara- に付く完了接辞はそれぞれ -ha と -ka である。『大清全書』における見出し語 farambi -ha 「昏了。」および『増訂清文鑑』における見出し語 farakabi 「發昏」を参照されたい。また、『満露辞典』(Захаров 1875: 1036) では、fara- に付く完了接辞として -ha と -ka の二形が記されている。『三譯総解』の当該箇所では、fara- に付く完了接辞は、-ka である。

feo 「漢語覆」 ³² (gung feo 「公覆」)	포	(5-9b-4-5) (5-15b-2-3) (5-19a-3-2)
ferguwembi 「奇とする」	---	---
ferguwehe	필귀허	(5-22b-3-3)
firgembumbi 「秘密を洩らす」	필검뵤비	(5-1b-6-3)
firgembure	필검부러	(5-1b-4-6)
fonde 「時に」	폰더	(5-15a-4-6)
fonjimbi 「問う」	---	---
fonjici	폰지치	(5-22b-6-3)
fonjifi	폰지피	(5-19a-1-2)
fonjime	폰지머	(5-9b-4-3)
fonjinjimbi 「問いに来る」	---	---
fonjinjiha	폰진지하	(5-23a-3-6)
forombi 「向く ; 振り向く ; 紡ぐ」	---	---
forofi	포로피	(5-13b-4-2)
fumbi 「拭く」	---	---
fuhe	푸허	(5-1b-2-3)
funcembi 「余る」	---	---
funceme	푼쳐머	(5-12a-4-4)
fung 「漢語鋒」 (siyan fung 「先鋒」)	푼	(5-6b-3-2) ³³ (5-14a-6-5)
funglu 「漢語俸禄」	푼루	(5-4b-2-1)
funiyaga 「度量」 ³⁴	푼냐가	(5-21b-4-2)
fusihūlambi 「輕蔑する」	푼시후람비	(5-18a-2-1)
gaibumbi 「取らせる ; 取られる ; 消息を探らせる ; 負ける」	---	---
gaibuha	개부하	(5-2a-6-4)
gaimbi 「とる」	---	---
gaifi	개피	(5-4a-3-7) (5-5a-1-7) (5-6b-2-8) (5-12a-3-6) (5-14a-1-6) (5-24b-3-7)
gaiha	개하	(5-7a-6-4) (5-13a-5-2)
gaiki	개키	(5-6a-4-5) (5-7b-5-4)
gaisu	개수	(5-13a-1-7) (5-13a-3-6) ³⁵

³² 『對音輯字』(上巻第 17 葉 a 面)では、漢字「覆」に対応する満洲文字は fu である。一方、『三譯総解』の(5-9b-4-4/5)などにおいては、「公覆」を表す語が gung feo に対応する形で現れている。なお、『三譯総解』の(3-1a-4-7/5-1)においては、「公覆」を表す語が gung fu に対応する形で現れている。

³³ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「푼」が「푼」のように見えるが、本来は「푼」と書かれていたものと考えられる。

³⁴ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても funiyagan と綴られている。『大清全書』における見出し語 funiyagan 「度量。志氣。」、funiyagan nekeliyen 「情薄。」および『増訂清文鑑』における見出し語 funiyagan 「度量」を参照されたい。

³⁵ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。また、満洲文字表記では、gaisu の su の付点は、印刷が不鮮明である。

gaitai 「突然」	개태	(5-2b-4-5) (5-13b-5-3) (5-17b-6-3)
gajimbi 「持って/取って/連れてくる ; 取り/連れに来る」 ³⁶	---	---
gajifi	가지피	(5-6a-6-4) (5-7a-1-1)
gajiha	가지하	(5-6a-1-3)
gala 「手」	가라	(5-19b-1-3)
gamambi 「持って/取って/連れていく」	---	---
gamafi	가마피	(5-16b-1-3) (5-18b-3-3)
ganambi 「取り/連れに行く」	---	---
gana	가나	(5-5b-6-4)
ganjimbi 「持って/取って/連れてくる ; 取り/連れに来る」 ³⁷	---	---
ganjime	간지머	(5-23a-4-5)

³⁶ gajimbi の意味については、早田 (1993) を参照されたい。

³⁷ 当該動詞の語幹は、『増訂清文鑑』・『満漢同文分類全書』では gaji- と綴られており、『大清全書』・『満漢同文全書』には gaji-, ganji- の両綴りが収録されており、『無圈点字書』には KAJI-, KANJI-, KACA-, KAJA- の綴りがある (岸田 1997: 86)。『大清全書』における ganji- の例は、ganjiha 「拿來。」やその命令形 ganju 「拿來。」がある。

ganjimeju ³⁸	간지머쥬	(5-14b-6-6)
garhan 「枝；支流；友達；十二支の支；単一；部隊；扉」 ³⁹	갈한	(5-6b-2-5)
gasambi 「怨む；哭す」	가삼비	(5-20b-6-3) (5-21b-4-5)
gasambio	가삼보	(5-21a-6-1)
gasara	가사라	(5-11b-3-6)
gasarengge ⁴⁰	가사렁거	(5-21b-1-1)
gelgun (gelgun akū 「敢えて〜」) ⁴¹	결군	(5-15b-5-4) (5-18a-1-6) (5-19a-5-1) (5-24a-1-2)

³⁸ -meji- は通常、分かち書きされている。しかし、『三譯総解』(5-14b-6-6)の ganjimeju では、ganjime と ju が分かち書きされていない。誤記である可能性が高い。なお、『三譯総解』(10-23b-6-2/3)には ganjime jio の語形があり、分かち書きされている。

語源的には、gaji- における ji は、ji-「来る」に由来すると考えられる (Hauer 2007: 175; 早田 1993: 90)。しかし、gajime ji- の形式も稀ではない。例えば、『満文金瓶梅』における gajime ji- の用例は早田 (1993: 105ff.) を参照されたい。

gajime jio, ganjime jio は gajinju, ganjinju の形式もある。例えば、『満洲老檔』には gajinju の形式が見られる。中國第一歴史檔案館 (2009: 1431) 第 5 行第 4 語の箇所を参照されたい。『満洲老檔』の当該箇所の gajinju に対応する『満洲原檔』の形式は、無圏点の KANJINJO (ganjinju) である。馮明珠 (2006b: 349) 第 1 行第 4 語の箇所を参照されたい。なお、Norman (2013: 130) には gajinju の未完了形 gajinjimbi が収録されている。

ga(n)ji-, ga(n)jime ji-, ga(n)jinji- の命令形の出現例を次表のとおりにまとめることができる。

表 4 : ga(n)ji-, ga(n)jime ji-, ga(n)jinji- の命令形の出現例

語幹形	命令形	出現例
gaji-	gaju	『大清全書』 gaju 「未見之物叫人拿來。」 『増訂清文鑑』 gaju 「使拿來」 『三譯総解』 gaju 가쥬 (10-22a-4-2)
	gaji	『大清全書』 hasaha gaji 「取剪子來。」 『増訂清文鑑』 gaji 「使拿來」
gajime ji-	gajime jio	『満文金瓶梅』 gajime jio (早田 1993: 106, 107) 『清語老乞大』 gajime jio (8-2a-4-2/3), (8-6a-3-4/5)
gajinji-	gajinju	『満洲老檔』 gajinju (中國第一歴史檔案館 2009: 1431 第 5 行第 4 語)
ganji-	ganju	『大清全書』 ganju 「拿來。」 『内国史院檔』 ganju (綿貫ほか 2023: 46)
ganjime ji-	ganjime jio	『満洲原檔』 ganjime jio (馮明珠 2006c: 221 第 11 行第 2/3 語) 『三譯総解』 ganjime jio 간지머 쥬 (10-23b-6-2/3)
	ganjimeju [sic]	『三譯総解』 ganjimeju 간지머쥬 (5-14b-6-6)
ganjinji-	ganjinju	『満洲原檔』 KANJINJO (馮明珠 2006b: 349 第 1 行第 4 語)

³⁹ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても gargan と綴られている。なお、岸田 (1997: 190) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、それぞれ garhan と gargan である。

⁴⁰ 母音調和に従えば、gasarengge ではなく、gasarangge のはずである。『大清全書』には yasa hiranume ishunde ehecume irgen gasarangge yendembi 「睚眦胥讒民乃作慝。」の例が収録されており、gasarangge の語形が出現している。しかし、『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも gasarengge に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 203) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも gasarangge である。

⁴¹ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても gelhun と綴られている。なお、岸田 (1997: 199, 201, 205) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、それぞれ gelgun と gelhun である。성백인 (1984: 27) によれば、『三譯総解』における towa 「火」、labdo, gelgun akū, targū は主として順治初年以前の文献に見られるものである。なお、王海波 (2026a: 20) の脚注 40 にある talgū は targū の誤記である。

geli 「また」	거리	(5-1a-5-6) (5-11a-4-2) (5-11b-3-5) (5-15a-1-3) (5-17a-3-2) (5-17b-4-3)
gemu	거무	(5-1b-2-2) (5-2a-5-3) (5-4b-1-5) (5-4b-4-2) (5-7b-2-2) (5-11b-6-6) (5-12b-2-6) (5-16a-3-3) (5-18b-1-6) (5-19a-4-2) (5-21a-6-5)
genembi 「行く」	---	---
geneci	거너치	(5-8b-5-3)
genefi	거너피	(5-3a-1-8) (5-4a-4-5) (5-8a-3-7) (5-18b-2-1) (5-19a-1-8)
geren 「多くの ; すべての ; 衆人」	거런	(5-2a-5-2) (5-10a-1-1) (5-11b-5-5) (5-12b-2-1) (5-12b-4-1) (5-14a-4-1) (5-16a-3-1) (5-16b-4-3) (5-17a-2-4) (5-17a-5-1) (5-17b-4-1) (5-18a-6-2) (5-21a-5-4) (5-22b-5-3)
	거런 ⁴²	(5-12a-3-4)
gese 「～のような」	거서	(5-23b-4-8)
ginggulembi 「敬う」	---	---
gingguleme	강구러머	(5-11a-5-4)
gisun 「言葉」	기순	(5-7a-6-1) (5-8a-3-3) (5-8a-5-4) (5-12b-6-1) (5-13b-2-5) (5-14b-2-3) (5-19b-2-3) (5-20a-1-4) (5-24a-1-5)
gisurembi 「話す」	---	---
gisurehe	기수러히	(5-22b-3-5)
gisureme	기수러머	(5-15b-5-7)
gisurerakū	기수러라쿠	(5-21b-1-5) (5-23a-1-3)
gisurere	기수러러	(5-8a-5-3) (5-20b-5-3)
gisureregge	기수러렁거	(5-14a-3-1)
giyan 「理」	간	(5-16a-5-3)
giyang 「漢語江」	강	(5-2b-2-3) (5-2b-4-2) (5-5b-1-4) (5-5b-2-7) (5-7a-3-2) (5-8b-4-2) (5-11b-1-1) (5-19b-5-6)
goidombi 「久くなる」	---	---
goidaha	괴다하	(5-11a-2-3)
goidahakū	괴다하쿠	(5-5b-6-7)
goidame	괴다머	(5-10a-1-7)
goidarakū	괴다라쿠	(5-16b-3-3)
golmin 「長い」	골민	(5-23a-1-5)
goro 「遠い」	고로	(5-8b-4-4) ⁴³
gosiholombi 「慟哭する ; 苦しむ」	---	---

⁴² 原書の当該箇所では、「거런」ではなく「거린」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

⁴³ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「고로」が「그로」のように見えるが、本来は「고로」と書かれていたものと考えられる。

gosiholocibe	고시호로치버	(5-24b-6-3)
gosiholome	고시호로머	(5-19a-5-5) (5-20b-1-5) (5-21a-4-4) (5-22a-4-5) (5-24a-3-3)
gung 「漢語公」 (gung feo 「公覆」) (gung jin 「公瑾」)	궁	(5-24a-2-5) (5-25a-2-1) (5-9b-4-4) (5-15b-2-2) (5-19a-3-1) (5-8b-2-5) (5-9a-3-1) (5-9a-6-1) (5-19a-2-5) (5-20a-3-3) (5-20b-4-1) (5-24a-6-3)
gurun 「国」	구룬	(5-3a-1-4) (5-3a-2-1) (5-3b-6-1) (5-4a-4-3) (5-13b-6-6) (5-15b-2-6)
guwebumbi 「赦免する」	---	---
guwebuci	귀부치	(5-15b-3-1)
guwebure	귀부러	(5-17b-5-3)
gūnimbi 「思う」	---	---
gūnifi	구니피	(5-10a-4-7)
gūniha	구니하	(5-24a-1-4)
gūnire	구니러	(5-16a-6-3)
gūnin 「心；意；考え」	구닌	(5-3a-5-4) (5-25a-4-7) ⁴⁴
gūsin 「三十」	구신	(5-13a-4-5)
gūwaliyambi 「変わる」	귀람비	(5-4b-5-1)
gūwaliyandara	귀란다라	(5-4b-2-6)
g'ai 「漢語蓋」 (hūwang g'ai 「黃蓋」)	개	(5-9b-2-3) (5-9b-6-2) (5-10b-3-2) (5-11a-1-2) (5-11b-2-2) (5-12b-6-4) (5-13a-4-2) (5-15a-1-2) (5-16a-4-4) (5-17a-6-4) (5-17b-5-2) (5-17b-6-6) (5-18a-6-5) (5-20a-4-2) (5-21a-4-2) (5-22a-2-3) (5-22b-4-3) (5-22b-6-5) (5-23a-4-2) (5-23a-6-2) (5-23b-3-2) (5-24a-4-3) (5-24b-2-2) (5-25a-4-2)
g'an 「漢語甘」 (g'an ning 「甘寧」)	간	(5-6b-1-3) (5-6b-6-3) ⁴⁵ (5-7a-5-5) (5-15b-1-1) (5-15b-4-3) (5-16a-2-1)
g'an 「漢語闕」 ⁴⁶ (g'an dze 「闕沢」)	간	(5-23b-1-3) (5-24a-2-2) (5-24a-5-5) (5-25a-1-4)
hafan 「官吏」	하판	(5-23a-3-4)
hafasa 「諸官」	하파사	(5-14a-4-2) (5-16a-3-2) (5-16b-4-4) (5-17a-3-1) (5-17a-5-2) (5-17b-4-2) (5-18a-6-3)

⁴⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語の満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、印刷が不鮮明である。

⁴⁵ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁴⁶ 『對音輯字』(上巻第44葉a面)では、漢字「闕」に対応する満洲文字は k'an である。一方、『三譯総解』において「闕澤」は45例出現しているが、いずれも g'an dze の形で現れている。dze の項目の脚注を参照されたい。

hafumbumbi「貫通させる；通曉させる；通訳する；伝える」	---	---
hafumbukini	하품부키니	(5-3a-3-3)
hanciki「近い所」	한치키	(5-3b-3-2)
hashū「左」	하후	(5-14b-5-2) (5-16a-1-1) (5-16b-6-1) (5-23a-6-4)
hendumbi「言う」	---	---
hendume	헨두머	(5-1b-2-6) (5-1b-5-2) (5-2b-2-2) (5-3a-4-5) (5-3b-2-1) (5-4a-2-4) (5-4b-3-3) (5-5b-4-1) (5-7a-1-3) ⁴⁷ (5-7b-1-5) (5-7b-3-6) (5-8a-6-1) (5-8b-1-2) (5-9b-6-3) (5-10a-4-3) (5-10b-3-3) (5-10b-5-3) (5-11a-1-3) (5-11a-6-1) (5-11b-2-3) (5-12a-2-6) (5-13a-1-1) (5-13a-2-4) (5-13a-4-3) (5-13b-6-3) (5-15a-2-3) (5-15b-2-1) (5-15b-4-7) (5-16a-4-2) (5-16b-4-2) (5-18a-1-3) (5-19a-2-3) (5-19b-3-3) (5-19b-4-5) (5-20a-2-2) (5-20b-1-2) (5-21a-3-3) (5-21a-5-3) (5-21a-6-4) (5-21b-2-3) ⁴⁸ (5-21b-3-4) (5-21b-5-4) (5-21b-6-4) (5-22a-1-5) (5-23b-1-5) (5-23b-3-3) (5-24a-2-4) (5-24a-5-1) (5-24a-6-2) (5-24b-2-3) (5-25a-1-6) (5-25a-4-3)
hendumio ⁴⁹	헨두민	(5-22a-1-2)
hendurakū	헨두라쿠	(5-19b-2-4)
hengkilembi「叩頭する」	---	---
hengkilefi	헝키러피	(5-11b-4-2)
hengkileme	헝키러머	(5-6b-4-7) ⁵⁰ (5-11a-5-3)
heo「漢語侯」 (u heo「呉侯」)	호	(5-4b-1-6) (5-24b-2-6)
heoledembi「怠慢になる」	---	---
heoledeci	호리더치	(5-18a-4-3)

⁴⁷ 原書の当該箇所における満洲語文語の満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、印刷が不鮮明である。

⁴⁸ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁴⁹ 『三譯総解』(5-22a-1-2)に見られる *hendumio* は、原書において *adaramo hendumio* という文脈に出現している。『満漢合璧三国志』の対応箇所における漢語は「何謂也」である。岸田(1997: 204)によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所はいずれも *adaramo* のみであり、*hendumio* が現れていない。また、岸田(1997: 204)は、漢文『三国志通俗演義』嘉靖本・李卓吾本において当該部分の漢語が「何謂也」であることから、『三譯総解』が *hendumio* を補っているのは、漢文に見える「謂」の字を忠実に訳出しようとしたものであろうと推測している。さらに、岸田(1997: 104-105)は、*hendumio* において本来 *-mbi* であるべき形が *-mi* として現れている点について、満洲語方言の発音との比較から論じている。

しかし、通常 *o* は疑問詞疑問文には用いられないにもかかわらず、*adaramo hendumio* では *o* と疑問詞 *adaramo* が共起している。この点から見ると、当該箇所の *o* は誤用である可能性が高い。岸田はこの問題については言及していない。なお、『三譯総解』(5-7b-6-4)の *sembio* も、疑問詞疑問文 (*ainu holtome jihebi sembio*) に用いられており、*o* を伴っている。したがって、同様の誤用であると考えられる。*sembio* の項目を参照されたい。

⁵⁰ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。


hergen 「字；掌蹠紋；爵、職位」	헐건	(5-1a-3-2) (5-1a-4-6) (5-1a-5-4) (5-1b-1-3)
hese 「敕旨；言葉」	히스	(5-14a-1-4)
hetu 「横」	허투	(5-15a-3-7)
ho 「漢語和 (ts'ai ho 「蔡和」)	호	(5-3b-3-8) (5-5b-4-9) (5-6b-4-4) (5-8b-6-5) (5-10a-5-4)
holkon (holkon de 「突然」)	홀콘	(5-5b-1-1) (5-23a-2-1)
holtombi 「騙す」	---	---
holtoci	홀토치	(5-20b-3-3)
holtome	홀토머	(5-3a-1-1) (5-4a-4-6) (5-7b-2-3) (5-7b-6-2) (5-9a-1-3) (5-10a-5-6) (5-10b-1-2) (5-22a-3-4) (5-25a-2-4)
holtoro	홀토로	(5-9a-5-4)
hūlambi 「讀む；呼ぶ；雄鶏が鳴く」	---	---
hūlafi	후라피	(5-14b-5-7)
hūlame	후라머	(5-15a-2-2) (5-21a-2-3)
hūlha 「泥棒」	홀하	(5-3a-2-5) (5-6a-3-8) (5-16b-2-1) (5-24b-5-4)
hūlhambi 「盜む」	---	---
hūlhame 「密かに」	홀하머	(5-4a-5-7)
hūwang 「漢語黃 (hūwang g'ai 「黄蓋」)	황	(5-9b-2-2) (5-9b-6-1) (5-10b-3-1) (5-11a-1-1) (5-11b-2-1) (5-12b-6-3) (5-13a-4-1) (5-15a-1-1) (5-16a-4-3) (5-17a-6-3) (5-17b-5-1) (5-17b-6-5) (5-18a-6-4) (5-20a-4-1) (5-21a-4-1) (5-22a-2-2) (5-22b-4-2) (5-22b-6-4) (5-23a-4-1) (5-23a-6-1) (5-23b-3-1) (5-24a-4-2) (5-24b-2-1) (5-25a-4-1)
i 「の；で」	이	(5-1b-5-6) (5-2a-1-9) (5-2b-6-1) (5-3a-2-2) (5-3a-6-4) (5-3b-3-1) (5-3b-3-4) (5-3b-4-2) (5-5a-3-2) (5-5a-3-9) (5-5b-4-4) (5-6b-2-6) (5-7b-3-5) (5-7b-4-3) (5-8a-1-5) (5-8b-2-7) (5-9a-5-2) (5-9a-6-3) (5-9b-4-6) (5-9b-6-5) (5-10a-1-3) (5-10a-5-5) (5-12b-1-1) (5-12b-3-2) (5-13b-2-4) (5-14a-1-1) (5-14a-1-3) (5-14b-1-5) (5-14b-3-5) (5-15a-2-1) (5-15b-2-7) (5-15b-5-3) ⁵¹ (5-16a-2-5) (5-16b-1-2) (5-

⁵¹ 当該箇所*i*は、『三譯総解』原書において *si ai jergi niyalma i gelgun akū balai gisureme...* という文脈に出現しており、『満漢合璧三国志』の対応箇所における漢語は「汝何等之人敢多言...」である。岸田 (1997: 199) によれば、『三譯総解』に見られる「*ai jergi niyalma i*」に対応する『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所はいずれも「*ai jergi niyalma,*」である。この相違の原因について岸田は言及していないが、筆者は、『三譯総解』の編纂者が『満文三国志』原文における *niyalma* の後に置かれた句読点「,」

		16b-4-5) (5-18b-5-4) (5-19a-4-4) (5-23b-4-7) (5-24a-6-5) (5-24b-2-7) (5-24b-3-3) (5-25a-4-5)
	o ⁵²	(5-23a-2-4)
ibembi 「前進する」	---	---
ibefi	이버피	(5-12b-6-5) ⁵³ (5-15b-1-4)
ici 「右 ; 方向」	이치	(5-5a-3-3) (5-14b-5-3) (5-16a-1-2) (5-16b-6-2) (5-23a-6-5)
ilan 「三」	이란	(5-12a-4-1) (5-12b-2-7) (5-13a-3-2) (5-15a-4-2) (5-24b-3-1)
iletu 「顕な」	이러투	(5-21b-1-4) (5-22b-3-4)
ilimbi 「立つ ; 起きる ; 止まる ; 休む」	---	---
ilifi	이리피	(5-17b-6-4)
ilihabi	이리하비	(5-12a-4-6)
ineku 「同じ ; 元の」	이너쿠	(5-1a-6-4)
inenggi 「日」	이닝기	(5-1a-2-2) (5-5a-1-2) (5-11b-5-2) (5-12a-5-2)
ing 「漢語營」	잉	(5-12a-4-5)
injecembi 「一緒に笑う」	---	---
injecefi	인저쳐피	(5-1b-2-1)
injembi 「笑う」	인점비	(5-8a-5-2) (5-8a-6-6)
injeme	인저머	(5-19b-3-2) (5-21b-5-3)
injerengge	인저렁거	(5-8b-2-2) ⁵⁴
inu 「そうだ ; 是 ; も」	이누	(5-1a-5-2) (5-9a-6-6) (5-11b-3-4) (5-12a-2-1) (5-13a-5-7) (5-18b-6-4) (5-20b-6-2) (5-21b-3-6)
ioi 「漢語攸」 ⁵⁵ (siyun ioi 「荀攸」)	위	(5-2b-1-4) (5-3b-1-5)
ioi 「漢語瑜」 (jeo ioi 「周瑜」)	위	(5-1a-2-6) ⁵⁶ (5-1a-6-1) (5-1b-2-5) (5-2b-3-1) (5-5a-5-2) (5-5b-6-1) (5-6a-5-5) (5-6b-6-2)

を満洲文字の i と誤認した可能性があると考え。なお、『三譯総解』における ai jergi niyalma i の朝鮮語訳は「므슴등사물으르」であり、岸田 (1997: 199) はこれを「何等 (の) 人」と和訳している。この訳から、『三譯総解』の編纂者は、当該箇所*i*を道具・手段を表す*i*と解釈していたことがうかがえる。
⁵² 原書の当該箇所では、「이」ではなく「o」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。



⁵³ 原書の当該箇所におけるハングル表記は「이버피」であるが、対応する満洲文字表記「」では be の付点がほとんど確認できないため、ibafi のように見える。

⁵⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁵⁵ 『對音輯字』(下巻第 17 葉 a 面)では、漢字「攸」に対応する満洲文字は io である。一方、『三譯総解』において「荀攸」を表す語は、siyun ioi に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 187) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれ siyun io と siyūn io である。

⁵⁶ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

		(5-7b-1-1) (5-7b-3-2) (5-9b-3-3) (5-9b-4-2) (5-10a-4-2) (5-10b-5-2) (5-11a-5-2) (5-12a-2-5) (5-13a-2-3) (5-13b-5-2) (5-15a-5-3) (5-15b-4-2) (5-16b-4-1) (5-17a-3-6) (5-17b-2-2) (5-17b-6-2) (5-21a-1-5) (5-21a-5-2) (5-21b-2-2) (5-21b-5-2) (5-22a-1-4)
isabumbi 「集める；髪を編ませる」	---	---
isabufi	이사부피	(5-11b-6-5)
isabuha	이사부하	(5-12b-1-4)
isgung 「互いに」 ⁵⁷	잇궁	(5-14a-4-5)
ishunde 「互いに」	잇훈더	(5-10a-1-5)
isibumbi 「至らせる、及ぼせる；届ける；贈る、与える」	---	---
isibuha	이시부하	(5-3b-5-5)
isibukini	이시부키니	(5-7a-4-1)
isinambi 「着く、至る」	---	---
isinaha	이시나하	(5-17b-3-7)
isinjimbi 「到来する」	---	---
isinjihabi	이신지하비	(5-5b-3-3)
jabumbi 「答える」	---	---
jabure	자부러	(5-8a-3-2)
jai 「第二；再び；更に」	재	(5-1b-4-1) (5-5a-1-1) (5-11b-5-1) (5-14a-2-2) (5-18a-4-1)
jakade 「～の所に/で；～ので」	자카더	(5-7b-1-2) (5-8b-5-1) (5-15a-6-7) (5-17a-6-2) (5-17b-5-6)
jalan 「世；世代；節；兵の一隊；甲喇(軍団の単位)」	자란	(5-15a-4-3) (5-24b-3-2)
jang 「漢語張」 (jang dzy bu 「張子布」)	장	(5-13b-2-1)
jeku 「穀物；糧食」	저쿠	(5-12b-1-5) (5-12b-3-4) (5-13a-1-4) (5-13a-3-4)
jembi 「食べる」	---	---
jetere	저터러	(5-12b-3-3)
jeterengge	저터렁거	(5-13a-5-1)
jenduken 「いっらか密かに」	전두컨	(5-6b-6-6) ⁵⁸ (5-9b-2-4)
jeo 「漢語州」 (jing jeo 「荊州」)	전	(5-4b-4-4)

⁵⁷ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても ishun と綴られている。『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、isgung に対応する形で現れている。金東昭 (1990[1977]: 96) と岸田 (1997: 100, 102) は、『三譯総解』の当該箇所の isgung と満洲語の方言の発音を比較している。

⁵⁸ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「전두컨」が「전두컨」のように見えるが、本来は「전두컨」と書かれていたものと考えられる。

jeo 「漢語周」 (jeo ioi 「周瑜」)	죤	(5-1a-2-5) (5-1a-5-8) (5-1b-2-4) (5-2b-2-7) (5-5a-5-1) (5-5b-5-4) (5-6a-5-4) (5-6b-6-1) (5-7a-6-7) (5-7b-3-1) (5-9b-3-2) (5-9b-4-1) (5-10a-4-1) (5-10b-5-1) (5-11a-5-1) (5-12a-2-4) (5-13a-2-2) (5-13b-5-1) (5-15a-5-2) (5-15b-4-1) (5-16b-3-4) (5-17a-3-5) (5-17b-2-1) (5-17b-6-1) (5-21a-1-4) (5-21a-5-1) (5-21b-2-1) (5-21b-5-1) (5-22a-1-3)
jergi 「階級；類い；回；凡庸な」	절기	(5-2a-1-7) (5-15b-5-1) (5-18b-4-3)
jilgan 「声；音」	질간	(5-15a-1-5)
jili 「怒り」	지리	(5-13b-6-1) (5-15a-6-2)
jimbi 「来る」	---	---
jici	지치	(5-8b-5-4)
jifi	지피	(5-5b-2-6) (5-7b-1-3) (5-19a-1-1) (5-22b-6-2)
jihe	지허	(5-5a-4-2) (5-5b-5-2) (5-6a-5-3) (5-19b-5-9)
jihebi	지허비	(5-7b-2-5) (5-7b-6-3)
jihengge	지형기	(5-7a-2-4) (5-9b-5-1)
jin 「漢語瑾」 (gung jin 「公瑾」)	진	(5-8b-2-6) (5-9a-3-2) (5-9a-6-2) (5-19a-2-6) (5-20a-3-4) (5-20b-4-2) (5-24a-6-4)
jing 「正に、丁度(漢語正)」	징	(5-7b-5-1) (5-10a-4-5)
jing 「漢語荊」 (jing jeo 「荊州」)	징	(5-4b-4-3)
jing 「漢語敬」 (dzy jing 「子敬」)	징	(5-8b-2-4) (5-19b-3-5) (5-20a-2-4)
jiramin 「厚い」	지라민	(5-3b-5-4)
jiyangjiyün 「漢語將軍」 ⁵⁹	장권	(5-3b-4-3) (5-6b-1-1) (5-11a-1-7) (5-11b-6-1) (5-12b-2-2) (5-12b-4-2) (5-15a-3-1) (5-21a-5-5) (5-23b-2-1)
	장권 ⁶⁰	(5-22b-5-4)
jiyansi 「漢語奸細」 ⁶¹	잔시	(5-8b-5-2)
jiyün 「漢語軍」 (ts'an jiyün 「參軍」)	죤	(5-23a-3-3)
jorimbi 「指差す；指示する」	---	---

⁵⁹ 当該語は『増訂清文鑑』では jiyanggiyün と綴られている。『大清全書』には jiyanggiyün と jiyangjiyün の両綴りが収録されている。なお、『大清全書』には ilhi jiyangciyün 「副將軍。」という語も収録されており、jiyangciyün の語形が見られるが、誤記である可能性が高い。

⁶⁰ 原書の当該箇所では、「장권」ではなく「장권」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

⁶¹ 『大清全書』における「奸細」(間諜、スパイ)は giyansi と綴られている。見出し語 giyansi 「奸細。」および giyansi tuwa sindara niyalma be jafarangge 「拿獲奸細放火之人。」を参照されたい。なお、『増訂清文鑑』における「奸細」は新清語の güldusi である。

gorime	조리머	(5-18a-1-2)
jug'oliyang 「漢語諸葛亮」	쥬고량	(5-2b-3-2) (5-20b-4-6) (5-20b-6-1)
julergi 「南；前」	쥬덜기	(5-5a-3-7) (5-15a-3-5)
juleri 「南(に)；前(に)」	쥬러리	(5-17a-3-7)
julesi 「南(に)；前(に)」	쥬러시	(5-15b-1-3)
jurgan 「行；筋；義；部院(中央官庁)」	줄간	(5-25a-5-5)
jurgangga 「節義ある」	줄강가	(5-23b-6-2)
jursu 「二重の」	줄수	(5-18a-4-4)
juse 「子供達；子供」 ⁶²	쥬서	(5-4b-3-5)
juwan 「十」	쥬완	(5-5b-2-2) ⁶³
juwe 「二」	쥬위	(5-1b-3-1) (5-1b-5-4) (5-2a-1-6) (5-2b-3-4) (5-2b-6-3) (5-3b-3-9) (5-4a-1-4) (5-4b-3-1) (5-6a-2-1) (5-6b-4-5) (5-7a-2-1) (5-7b-1-7) (5-14a-5-4)
kai 「指定や断定の終助詞」	개	(5-1b-6-1) (5-3a-4-3) (5-7a-4-3) (5-8b-3-5) (5-9a-6-7) (5-11b-1-6) (5-15b-2-10) (5-20a-5-3) (5-22a-2-7) (5-22a-6-3)
karmambi 「保護する」	---	---
karmara	칼마라	(5-7a-5-4) ⁶⁴
karu 「報い」	카루	(5-6a-4-4) ⁶⁵ (5-7b-5-3)
karulambi 「報いる」	---	---
karulara	카루라라	(5-24b-4-1)

⁶² 早田 (1988: 16) によれば、『満文金瓶梅』における juse は、しばしば一人の「子供」を指す。したがって、本稿では「子供達」という訳に加えて、「子供」という訳も併記している。なお、筆者が調査した満洲語三家子方言においても、juse が一人の「子供」を指す用法が確認されている。

⁶³ 蔡中・蔡和らが曹操側から周瑜側へ向かう際の船の数について、『三譯総解』(5-5a-2-1/2)において emu udu と記されているが、(5-5b-2-2/3)において juwan udu と記されている。一方、『満漢合璧三国志』の対応箇所(10-14b-6-7/8), (10-15a-2-5/6)はいずれも emu udu であり、対応漢語はいずれも「数隻」である。

岸田 (1997: 188) によれば、『三譯総解』(5-5b-2-2/3)の juwan udu に対応する『満文三国志』・『満漢合璧三国志』の当該箇所はいずれも emu udu である。漢文『三国志通俗演義』の嘉靖本はこの部分を「数隻」に作る一方で、李卓吾本は「数十隻」に作る。岸田 (1997: 188) は、『満文三国志』・『満漢合璧三国志』の満文は嘉靖本に基づいたものであり、『三譯総解』の満文は李卓吾本もしくはそれと同様の記述をおこなう何らかの漢文版本を参照して改変を加えたものである可能性を指摘している。

juwan udu に対応する『三譯総解』原書での朝鮮語訳は「여라믄」であり、「十余り」(十をちょっと越す数)の意味である。一方、漢語の「数十」は、日本語の「数十」と同様、十の数倍の意味である。

上記の「여라믄」の意味に関しては、南廣祐 (1997: 1078) は現代語で「여남믄」、高麗語言研究院 (2006: 771) は現代語で「여라믄」と「십여」とそれぞれ訳している。두산동아 사서편집국 (1994: 1386) は「여남믄」を「10 くらいから 10 をちょっとこす数；10 余り；十余」と和訳している。「십여」は漢字語「十余」であると考えられる。

⁶⁴ 『大清新書』および『増訂清文鑑』における karmambi の漢訳はそれぞれ「保民保身之保。」と「保護」である。一方、『三譯総解』において ume karmara に対応する朝鮮語訳は「막지말라」であり、『満漢合璧三国志』の対応箇所の漢訳は「休要阻當」である。karma- に対応する朝鮮語訳と漢語はそれぞれ「막」と「阻當」である。「막」は「遮る；ふさぐ」を意味し (두산동아 사서편집국 1994: 717)、「阻當」は「阻止する」を意味する。

⁶⁵ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「카루」が「기루」のように見えるが、本来は「카루」と書かれていたものと考えられる。

kenehunjebumbi 「疑わせる ; 疑われる」	---	---
kenehunjeburakūngge	커너훈저부라쿱 거	(5-9a-2-1)
kenehunjembi 「疑う」	---	---
kenehunjeci	커너훈저치	(5-8a-1-3)
kenehunjerakū	커너훈저라쿠	(5-3b-6-3)
kenehunjere	커너훈저러	(5-1b-4-2) (5-4b-6-2)
kesi 「恩」	커시	(5-3b-5-2) (5-11b-1-5) (5-24b-3-4)
kimu 「仇」 ⁶⁶	키무	(5-6a-4-3) ⁶⁷ (5-7b-5-2)
kimun 「仇」	키문	(5-23b-2-4)
komso 「少ない」	콤포소	(5-10a-1-4)
korsombi 「悔恨する ; 恨む」	콜솨뵈	(5-10b-2-7)
korsoro	콜소로	(5-11a-4-3) (5-25a-1-1)
kungming 「漢語孔明」	쿱밍	(5-1a-4-1) (5-1a-5-1) (5-1b-5-1) (5-8a-3-8) (5-8a-4-4) (5-8a-6-2) (5-8b-1-1) (5-12a-1-3) (5-19a-1-4) (5-19b-3-1) (5-20a-2-1) (5-20b-1-1) (5-21b-2-4) (5-22b-2-3)
labdo 「多い」 ⁶⁸	람도	(5-21b-1-2)
lasha 「かけら ; ずばりと」	랏하	(5-18b-1-7) (5-18b-1-8)
lu 「漢語魯」 (lu su 「魯肅」)	루	(5-7a-6-5) (5-8a-2-4) (5-8a-5-7) (5-9b-1-1) (5-18b-6-2) (5-19a-2-1) (5-19b-4-3) (5-20a-6-3) (5-21a-1-1) (5-21a-3-1) (5-21a-6-2) (5-21b-3-2) (5-21b-6-2) (5-22b-2-1)

⁶⁶ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても kimun と綴られている。『大清全書』における見出し語 kimun 「讐。忿。」および『増訂清文鑑』における見出し語 kimun 「讐」を参照された。一方、『三譯総解』には、kimu および kimun の両綴りが存在する。kimu は(5-6a-4-3), (5-7b-5-2)に見られ、kimun は(5-23b-2-4)に見られる。岸田 (1997: 189, 192)によれば、『三譯総解』(5-6a-4-3), (5-7b-5-2)の kimu に対応する『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所には同語が現れておらず、文脈上の言葉遣いも異なっている。これに対し、『三譯総解』(5-23b-2-4)の kimun に対応する『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の形式については、岸田 (1997) は言及していないものの、筆者の確認によれば、両書ともに kimun の形に作る。以上より、『三譯総解』における当該語は、編纂者が自ら書き加えた部分では kimu と綴られているのに対し、『満文三国志』に由来する部分では、原書に従って kimun と綴られていると考えられる。

⁶⁷ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁶⁸ 当該語は、『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても labdu と綴られている。しかし、『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、labdo に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 203)によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形は labdu である。성백인 (1984: 27)によれば、『三譯総解』における towa 「火」、labdo、gelgun akū、targū は主として順治初年以前の文献に見られるものである。김주원 (1990: 16) は『三譯総解』(3-23a-6-2)における labdo の語形について言及している。

lu 「漢語虜」 (po lu 「破虜」)	르 ⁶⁹ 루	(5-11a-1-6) (5-15a-2-7)
maktambi 「投げる；賞賛する」	---	---
maktafi	막타피	(5-13b-3-6)
mangga 「難しい；硬い；強い；高価な」	망가	(5-2b-5-3) (5-8b-5-5) (5-10a-2-2) ⁷⁰ (5-13a-6-1) (5-14b-4-2) (5-17b-2-6)
manggi 「～た後」	망기	(5-5b-6-6) (5-6b-3-5) (5-8a-4-3) (5-9b-3-6) (5-16a-2-9) (5-16b-2-4) (5-17b-3-8) (5-18b-4-1) (5-21a-2-5) (5-23b-1-2)
mao 「漢語瑁」 (ts'ai mao 「蔡瑁」) ⁷¹	만	(5-3b-2-3) (5-3b-2-7) (5-5b-4-3)
meiren 「肩；正副の副；弓柄などの両側」	메런	(5-3b-4-1)
mejige 「消息」	머지거	(5-2b-5-1) (5-3a-3-1) (5-4a-5-3) (5-7a-3-5) (5-9a-4-3) (5-10a-6-4)
meni 「私たち(除外的)の」	머니	(5-4b-3-4)
mimbe 「私を」	میم버	(5-11a-1-4) (5-18a-1-8) (5-19b-3-6) ⁷²
minde 「私に」	민더	(5-25a-2-2)
mini 「私の」	미니	(5-3a-5-3) (5-6a-3-1) (5-8b-2-1) (5-11a-3-8) (5-14b-1-3) (5-15b-5-8)
monggo 「蒙古」	몽고	(5-4a-1-7) (5-18a-5-3) (5-18b-3-1) (5-21a-2-1) (5-22b-4-4)
moo 「樹木；木材；棒」	모	(5-17a-1-4) (5-17b-3-5) (5-18a-3-3)
mujilen 「心」	무지런	(5-4b-2-3) (5-4b-4-8) (5-11a-4-1) (5-14b-1-6) (5-14b-3-6) (5-23b-4-6) (5-23b-6-3)

⁶⁹ 『對音輯字』(上巻第10葉a面)では、漢字「虜」に対応する満洲文字は lu である。一方、『三譯総解』原書の(5-11a-1-5/6)において「破虜」を表す語は、満洲文字表記では po lu、ハングル表記では「포 루」ではなく「포 르」の形で現れている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。同書の(5-15a-2-6/7)では、「포 루」と記されている。

⁷⁰ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁷¹ 岸田(1997: 187, 189, 221)によれば、『三譯総解』(5-3b-2-2/3), (5-3b-2-6/7), (5-5b-4-2/3), (7-5b-6-4/5) (それぞれ岸田対校表番号 270, 272, 284, 545 に相当) の ts'ai mao に対応する『満文三国志』・『満漢合璧三国志』の当該箇所における語形はいずれも ts'ai moo である。また、岸田(1997: 90)によれば、『満文三国志』も、(10-2a-2)では、ts'ai mao の形に作る。

『三譯総解』・『満漢合璧三国志』における ts'ai mao～ts'ai moo の語形を次表のとおりにまとめることができる。表中の『満漢合璧三国志』の範囲は、『三譯総解』に対応する部分のみである。

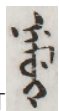
表5: 『三譯総解』・『満漢合璧三国志』における ts'ai mao および ts'ai moo

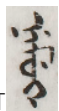
	岸田対校表番号	『三譯総解』	『満漢合璧三国志』
[1]	---	ts'ai mao (4-1a-3-3/4)	ts'ai mao (10-2a-2-11/-3-1)
[2]	270	ts'ai mao (5-3b-2-2/3)	ts'ai moo (10-14a-3-3/4)
[3]	272	ts'ai mao (5-3b-2-6/7)	ts'ai moo (10-14a-4-2/3)
[4]	284	ts'ai mao (5-5b-4-2/3)	ts'ai moo (10-15a-3-3/4)
[5]	545	ts'ai mao (7-5b-6-4/5)	ts'ai moo (10-36b-6-4/5)

⁷² 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

muke 「水」	무커	(5-18b-5-5)
mukšan 「棍棒」	묵산	(5-16a-2-4)
muse 「私たち(包括的)」	무서	(5-1b-5-3) (5-9a-1-5) (5-10a-1-2)
musei 「私たち(包括的)の」	무세	(5-12a-6-3)
mutembi 「できる」	---	---
mutehe	무터히	(5-4b-1-3)
muterengge	무터링거	(5-12a-6-1)
na 「地」	나	(5-17b-1-5)
nakambi 「やめる」	---	---
nakara	나카라	(5-18a-3-6)
nakarakū	나카라쿠	(5-18a-5-2)
nekeliyen 「薄い」	너커런	(5-21b-4-3)
nemembi 「増す」	---	---
nemum 「さらに」 ⁷³	너뭉	(5-6a-6-7)
nenembi 「先行する」	---	---
neneme 「先に」	너너머	(5-1a-3-4) (5-16a-1-7) (5-22a-4-2)
ni 「疑問・感動の終助詞」	니	(5-10b-6-3)
ni 「の ; で」	니	(5-2b-2-4) (5-5b-1-5) (5-5b-2-8) (5-6b-2-2) (5-11b-1-2) (5-19a-1-5) (5-19b-5-4) (5-22b-2-4) (5-24a-2-6)
ning 「漢語寧」 (g'an ning 「甘寧」)	닝	(5-6b-2-1) (5-6b-6-4) (5-7a-5-6) (5-15b-1-2) (5-15b-4-4) (5-16a-2-2)
niyakūrambi 「跪く」	---	---
niyakūrafi	냐쿠라피	(5-6a-2-3) (5-16a-3-4)
niyalma 「人」	날마	(5-2b-6-4) (5-4a-5-5) (5-10b-2-4) (5-14b-3-4) (5-15b-5-2) (5-18b-5-2) (5-19a-4-6) (5-23a-2-5) (5-23a-4-3) (5-23b-4-9)
nofi 「人の助数詞」	노피	(5-2b-3-5) (5-3b-3-10) (5-4a-1-5) (5-4b-3-2) (5-6a-2-2) (5-6b-4-6) (5-7a-2-2) (5-7b-2-1)

⁷³ 原書の当該箇所におけるハングル表記は「너뭉」(nemum)であり、これに対応する満洲文字表記は



「」である。ここの語末の m は、(7-8b-2-1)「자카람」に対応する満洲文字表記にも見られる。

当該箇所の nemum は、『三譯総解』原書において nemum dergi jiyangjiyūn obufi という文脈に出現しており、『満漢合璧三国志』の対応箇所における漢語は「加爲上將」である。したがって、ここでの nemum は漢語の「加」に相当する語であると考えられる。岸田 (1997: 190) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所において nemum が欠けている。岸田が指摘しているように、漢文『三国志通俗演義』の嘉靖本・李卓吾本はいずれも、『満漢合璧三国志』の対応箇所における漢語と同様に「加」を有しているにもかかわらず、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の満文では、翻訳の過程でこれが省略されている。一方、『三譯総解』の満文は、この点を忠実に訳出したものであると考えられる。『三譯総解』原書における朝鮮語訳は「더욱」である。「더욱」は現代語では「더욱」であり(南廣祐 1997: 393; 高麗語言研究院 2006: 180)、「さらに」を意味する(두산동아 사서편집국 1994: 571; 岸田 1997: 190)。

満洲語の nemum という語形は、『大清全書』や『増訂清文鑑』には見られないが、『増訂清文鑑』における nememe 「愈加」の異形である可能性が高い。岸田 (1997: 105-106) も同意見であり、満洲語現代方言における -me が -m として現れる現象と比較している。

nure 「酒(粟や黍などを原料として醸造した酒)」	누리	(5-2a-4-4)
obumbi 「する」	---	---
obufi	오부피	(5-6b-1-2)
obure	오부러	(5-4b-1-7)
oburengge	오부렁거	(5-22a-6-2)
olhombi 「乾く ; 恐れる」	---	---
olhome	올호머	(5-21b-1-3)
ombi 「なる」	옴비	(5-3a-4-2) (5-3b-1-3) (5-16a-6-1) (5-20b-3-4)
oci	오치	(5-1b-3-5) (5-10b-5-7) ⁷⁴ (5-13b-1-5) (5-20b-2-2)
ofi	오피	(5-1b-1-5) (5-3a-2-6) (5-8a-3-5) (5-8b-5-6) (5-10b-2-6) (5-14a-6-6) (5-19a-4-7) (5-24b-4-4)
oho	오호	(5-15a-4-4)
ohobi	오호비	(5-3b-4-4)
ohode	오호더	(5-3a-3-5) (5-14b-3-3)
ojoro	오쵸로	(5-8b-4-5)
oso	오소	(5-6b-3-3)
omimbi 「飲む」	---	---
omime	오미머	(5-2a-4-5)
onco 「横に広い」	온초	(5-16b-1-1)
orho 「草」	올호	(5-12b-1-6) (5-12b-3-5) (5-13a-1-5) (5-13a-3-5)
po 「漢語破」 (po lu 「破虜」)	포	(5-11a-1-5) (5-15a-2-6)
sa 「～たち」	사	(5-11b-6-2) (5-12b-2-3) (5-12b-4-3) (5-21a-5-6) (5-22b-5-5)
saimbi 「咬む」	---	---
sai me	새머	(5-17b-2-4)
sain 「良い」	센	(5-9b-5-3)
saisa 「賢者」	새사	(5-8a-1-7)
sambi 「知る」	삼비	(5-20b-4-8)
safi	사피	(5-23b-6-6)
saha	사하	(5-24a-5-4)
sambio	삼보	(5-21b-3-1) ⁷⁵
sara	사라	(5-25a-6-2)
sarkū	살쿠	(5-2a-5-4) (5-7a-5-1) (5-8b-3-3) (5-20a-3-1)
sargan 「妻」	살간	(5-4b-4-1)

⁷⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁷⁵ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「삼보」が「심보」のように見えるが、本来は「삼보」と書かれていたものと考えられる。

sarin 「酒宴」	사린	(5-1a-2-3)
sejilembi 「嘆く」	서지럼비	(5-23a-1-6)
sembi 「言う」	슴비	(5-5b-5-3) (5-10a-6-7)
sefi	스피	(5-2a-4-3) (5-11b-3-9) (5-14b-4-3) (5-20a-4-5)
sehe	스허	(5-5b-6-5) (5-6b-3-4) ⁷⁶ (5-6b-5-6) (5-13a-2-1) (5-14a-3-5) (5-16a-2-8)
sembio	슴빈	(5-7b-6-4) ⁷⁷
seme	스며	(5-2a-3-2) (5-2a-6-5) (5-3a-1-7) (5-3a-5-2) (5-6a-4-6) (5-9a-3-8) (5-11a-3-7) (5-11b-3-3) (5-13a-5-3) (5-14a-2-4) (5-17b-3-2) (5-18a-4-7) (5-20b-5-1) (5-20b-6-4) (5-21b-4-4) (5-23a-1-2)
semeo	스몐	(5-23b-2-6) (5-24a-4-1)
sere	스리	(5-1a-4-4) (5-1b-1-1) (5-12b-5-6) (5-15a-6-6) (5-17a-6-1)
serengge	스렁거	(5-7a-4-2) ⁷⁸ (5-7b-5-5) (5-9a-4-5) (5-25a-3-2)
seng 「漢語生」 ⁷⁹ (siyan seng 「先生」)	승	(5-19a-6-2) (5-19b-5-3) (5-23b-5-4)
senggi 「血」	성기	(5-18b-2-2)
serebumbi 「覚らせる ; 覚られる」	---	---
serebuekū	서리부허쿠	(5-21b-6-1)
seyembi 「恨みを抱く」	---	---
seyeme	서여머	(5-18a-5-1)
si 「あなた」	시	(5-3a-6-1) (5-8a-1-1) (5-14a-6-3) (5-15a-4-7) (5-15b-4-8) (5-18a-1-4) (5-19a-6-3)
silhi 「胆囊」	실히	(5-11a-3-3)
simbe 「あなたを」	심버	(5-14b-3-1) (5-19b-6-5)
sindambi 「置く ; 放つ」	---	---
sindaha	신다하	(5-17a-4-1)
sini 「あなたの」	시니	(5-16b-5-3) (5-25a-5-3)

⁷⁶ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「스허」が「스히」のように見えるが、本来は「스허」と書かれていたものと考えられる。

⁷⁷ 『三譯総解』(5-7b-6-4)に見られる *sembio* は、原書において *ainu holtome jihe bi sembio* という文脈に出現している。『満漢合璧三国志』の対応箇所における漢語は「何詐之有」である。しかし、通常 *o* は疑問詞疑問文には用いられない。岸田 (1997: 192) は『満文三国志』および『満漢合璧三国志』において、対応箇所における語形はいずれも *sembi* であると指摘しているが、疑問詞疑問文における *o* の使用の問題については言及していない。なお、『三譯総解』(5-22a-1-2)の *hendumio* も、疑問詞疑問文 (*adaramo hendumio*) に用いられているが、*o* を伴っている。*hendumio* の項目を参照されたい。

⁷⁸ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「스렁거」が「스렁거」のように見えるが、本来は「스렁거」と書かれていたものと考えられる。

⁷⁹ 王海波 (2026b: 30) の脚注 34 を参照されたい。

siiran (emu siiran i, siiran siiran i 「続け様に、陸続と」) ⁸⁰	시란	(5-12a-3-7) (5-12a-3-8)
sirdan 「矢」	실단	(5-2a-6-2)
sisimbi 「挿す」	---	---
sisifi	시시피	(5-19b-1-7)
siyan 「漢語先」 (siyan fung 「先鋒」) (siyan seng 「先生」)	산	(5-6b-3-1) (5-14a-6-4) (5-19a-6-1) (5-19b-5-2) (5-23b-5-3)
siyun 「漢語荀」 ⁸¹ (siyun ioi 「荀攸」)	순	(5-2b-1-3) (5-3b-1-4)
songgombi 「泣く」	---	---
songgome	송고머	(5-6a-2-4)
sonjombi 「選ぶ」	---	---
sonjofi	손조피	(5-2b-6-6)
su 「漢語肅」 (lu su 「魯肅」)	수	(5-7a-6-6) (5-8a-3-1) (5-8a-5-8) (5-9b-1-2) (5-18b-6-3) (5-19a-2-2) (5-19b-4-4) (5-20a- 6-4) (5-21a-1-2) (5-21a-3-2) (5-21a-6-3) (5- 21b-3-3) (5-21b-6-3) (5-22b-2-2)
suilabumbi 「苦勞させる」	---	---
suilaburakū	쉬라부라쿠	(5-10b-5-6)
sujambi 「支える；防ぐ」	---	---
sujaci	수자치	(5-10a-2-1)
sujaki	수자키	(5-12b-5-5)
suje 「緞子」	수저	(5-6a-6-2)

⁸⁰ 『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても見出し語 *siiran siiran i* が収録されており、いずれも *i* を伴っている。一方、『三譯総解』では、*i* を伴う *siiran siiran i* と、*i* を伴わない *siiran siiran* の双方の用例が存在する。前者の例としては(3-8b-4-1/2/3)を、後者の例としては(5-12a-3-7/8)を参照されたい。岸田(1997: 195)によれば、『三譯総解』(5-12a-3-7/8)の *siiran siiran* に対応する『滿文三国志』および『滿漢合璧三国志』の当該箇所では、いずれも *siiran siiran i* と記されており、*i* を伴っている。

⁸¹ 『對音輯字』(下巻第31葉b面)では、漢字「荀」に対応する満洲文字は *siyūn* である。一方、『三譯総解』において「荀攸」を表す語は、*siyun ioi* に対応する形で現れている。なお、岸田(1997: 187)によれば、『滿文三国志』および『滿漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれ *siyun io* と *siyūn io* である。

sumbi 「解く ; 脱ぐ ; (他者の服を)脱がせる ; 門を開ける」	---	---
sufi	수피	(5-17b-1-4) ⁸²
sunja 「五」	순자	(5-5a-1-3)
susai 「五十」	수새	(5-17b-3-4) (5-18a-3-2)
suweni 「あなたたちの」	쉬니	(5-4a-3-1)
šambi 「見る」	---	---
šame	샤머	(5-14a-5-1)
šangnambi 「賞する」	---	---
šangnaha	상나하	(5-4b-6-5)
šangname	상나마	(5-6a-6-5)
tacibumbi 「教える」	---	---
tacibume	타치부머	(5-4a-2-3) (5-7a-1-2)
tafulambi 「諫める」	타푸람비	(5-20a-6-2)
tafulahakū	타푸라하쿠	(5-19a-5-6)
tafulame	타푸라머	(5-15b-1-5)
taka 「暫く」	타카	(5-16b-1-7) (5-18a-3-1)
takūrambi 「遣わす」	---	---
takūrafi	타쿠라피	(5-4a-5-6) (5-9a-1-2) (5-23a-4-4)
takūrahange	타쿠라향거	(5-7a-3-4)
takūrame	타쿠라머	(5-22a-3-3)
tanggū 「百」	탕구	(5-5a-1-4) (5-12a-3-2) (5-12a-4-2) (5-17a-1-3)
tantabumbi 「打たせる ; 打たれる」	---	---
tantabuhange	탄타부향거	(5-24a-3-1)

⁸²「着る」と「(他者に服を)着せる」は満洲語文語ではそれぞれ *etu-* と *etubu-* で区別される。一方、「脱ぐ」と「(他者の服を)脱がせる」は、いずれも *su-* によって表される。『三譯総解』(5-17b-1-4)に見られる *sufi* は、原書において *hūwang g'ai be ušafi etuku be sufi* という文脈に出現しており、当該箇所における朝鮮語訳は「黃蓋를 씌어 옷을 벗겨서」である。岸田 (1997: 201) は「黃蓋をひきずって衣服を脱がせて」と和訳している。

筆者の確認によれば、*su-* によって「(他者の服を)脱がせる」を表す例は、他の文献にもある。例えば、『満文原檔』第一冊荒字檔第 95 葉第 6 行 (画像は馮明珠 2006a: 81 右図参照) には、*baha niyalmai etuhe etukube ume sure* (原文は無圈点の満洲文字であるが、ここでは対応する有圈点満洲文字のメレンドルフ式転写で記す)「得た人の着た服を脱がせるな」とあり、ここでも *su-* は「(他者の服を)脱がせる」意で用いられている。

また、他者に命じて「着させる」・「脱がせる」は、満洲語文語ではそれぞれ *etubumbi* と *subumbi* で表され、いずれも使役接辞 *-bu* を伴う。『増訂清文鑑』の見出し語 *etubumbi* 「使穿」および *subumbi* 「使脱」を参照されたい。

以上を次表のとおりにもとめることができる。[1a] と [2b] の間には非対称性が認められる。また、筆者の調査によれば、シベ語はこの点において満洲語文語と同様である。なお、*su-* はこのほか「解く」などの意味も有する。

表 6: 満洲語文語における着脱動詞の操作使役と指示使役

[1a]	着る	<i>etu-</i>	[1b]	脱ぐ	<i>su-</i>
[2a]	他者に服を着せる	<i>etubu-</i>	[2b]	他者の服を脱がせる	<i>su-</i>
[3a]	他者に命じて服を着させる	<i>etubu-</i>	[3b]	他者に命じて服を脱がせる	<i>subu-</i>

tantambi 「打つ」	---	---
tanta	탄타	(5-17a-5-7) (5-17b-3-1)
tantafi	탄타피	(5-17a-1-6)
tantaha	탄타하	(5-18b-1-3) (5-21a-4-5)
tantahange	탄타항거	(5-20a-4-7) (5-22a-2-5)
tantame	탄타머	(5-16a-2-6) (5-17b-3-3)
tantara	탄타라	(5-18a-3-4) (5-19a-3-6)
te 「今」	터	(5-6a-4-2) (5-14a-5-3)
tebumbi 「座らせる ; 住ませる ; 職に就かせる ; 駐屯させる ; 盛る ; 植える ; 納棺する ; 酒を作る」	---	---
tebu	터부	(5-12b-3-6)
tecembi 「一緒に座る」	---	---
tecehe	터쳐허	(5-23a-5-3)
tede 「そ/あの所に ; そ/あのの人に」	터더	(5-21b-5-7)
teike 「今し方」	테커	(5-13a-1-3) ⁸³
tembi 「座る ; 住む ; 職に就く ; 駐屯する ; 沈殿する ; 水が溜まる」	---	---
tefi	터피	(5-5a-2-6)
tehe	터허	(5-12a-2-2)
teni 「やっと」	터니	(5-9b-1-3) (5-20a-6-5)
tere 「その ; それ ; その人 ; あの ; あれ ; あの人」	터리	(5-1a-2-1) (5-3a-1-9) (5-4a-1-2) (5-7b-4-2) ⁸⁴ (5-9a-4-1) (5-9b-6-4) (5-10b-5-8) (5-15a-4-5) (5-17a-1-7) (5-19a-4-3) (5-19a-5-3) ⁸⁵ (5-20a-5-1) (5-21b-3-5) (5-22a-3-1)
tereci 「それ/あれ/その人/あの人より ; それから ; さて ; やがて」	터리치	(5-2a-5-5) (5-5a-4-3) (5-9b-2-1) (5-22b-4-1)
tetendere 「～からには」	터턴드러	(5-1b-3-6)
tob 「正しい ; 正に」	툽	(5-3a-5-1) (5-9a-3-7)

⁸³ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁸⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁸⁵ 当該の *tere* は、原書において *tere efuleme* という文脈に出現している。一方、岸田 (1997: 202) が指摘しているように、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の対応箇所では、*tere* ではなく *dere* の語形が用いられている。漢文『三国志通俗演義』の嘉靖本と李卓吾本における当該箇所の対応漢語はいずれも「顔」であることから、『三譯総解』の当該箇所に見られる *tere* は誤記であることがわかる。また、対応する朝鮮語訳「저를」(彼を)も、この誤記に基づく訳である。

朝鮮語訳「저를」から判断すると、『三譯総解』の編纂者は、当該箇所の *tere* を「彼を」という対格の意味で解釈していることがうかがえる。しかし、ここの *tere* には対格標識が付されていない。満洲語においては名詞句の対格標識が省略されることがあるものの、特定性の高い *tere* に付く対格標識は省略不可能であると考えられる。岸田はこの *tere* が *dere* の誤記であることを指摘しているが、対格の意味を担いながら対格標識を欠く *tere* の不自然さについては言及していない。

todabumbi 「償還させる」	---	---
todabu ⁸⁶	토다부	(5-17a-2-3)
tohorombumbi 「安撫する」	---	---
tohoromburengge	토호롬부렁거	(5-14b-4-1)
tokdobumbi 「決める ; 平定する」	---	---
tokdobuhabi ⁸⁷	톡도부하비	(5-14a-1-8) ⁸⁸
tome	토머	(5-12b-2-5)
tondo	톤도	(5-23b-6-1)
toombi 「罵る」	---	---
too ⁸⁹	툄	(5-7b-3-3)
towa 「火」 ⁹⁰	토와	(5-1a-4-3) (5-1a-6-5) (5-2a-1-8) (5-10a-3-2) (5-22b-1-1)

⁸⁶ 当該語の語幹は、『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても toodabu- と綴られている。『大清全書』における見出し語 bithe coohai hafasa be sunjata ubu toodabumbi 「文武官各賠伍分。」および『増訂清文鑑』における見出し語 toodabumbi 「使還」を参照されたい。なお、『大清全書』には ejen de tootabufi 「賠主。」も収録されており、tootabu- という語幹形が見られるが、誤記である可能性がある。

⁸⁷ 語基形 tokdo- については、王海波 (2026b: 33) の脚注 36 を参照されたい。

⁸⁸ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記「톡도부하비」のうち、「도」の部分の印刷が不鮮明である。

⁸⁹ 『三譯総解』(5-7b-3-3)に見られる too は、原書において too cira i hendume という文脈に出現している。原書における朝鮮語訳は「꾸짖는듯초로니로되」である。岸田 (1997: 75) はこの朝鮮語訳を日本語で「叱る顔で言うには」と訳している。岸田 (1997: 262) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所における語形は、いずれも tob である。『三譯総解』において当該箇所が too に作られた原因として、次の二点が考えられる。

(1) 満文の tob を too と誤認した可能性。

(2) 漢文『三国志通俗演義』李卓吾本系統の版本を参照した可能性。

岸田 (1997: 75, 262) が挙げた諸版本の『三国志演義』における当該箇所の情報は、次表のとおりに整理できる。次表では、第 2 列に示した出現箇所について、行番号まで記すこととする。

すなわち、漢文『三国志通俗演義』の嘉靖本と李卓吾本とでは、それぞれ「瑜正色曰」と「瑜叱曰」という差異が見られる。『満文三国志』および『満漢合璧三国志』に見られる tob cira は嘉靖本の「正色」に対応するのに対し、『三譯総解』の too cira i は李卓吾本の「叱」に対応する。以上より、岸田 (1997: 75) が指摘しているように、『三譯総解』の編纂者が本来 tob とすべき箇所を too に作った原因の一端は、この部分を「叱」とする李卓吾本系統の漢文テキストを参照しつつ編纂を行った点に求められる。

表 7: 『三譯総解』 too cira i hendume に対応する『三国志演義』諸版本の異文

漢文『三国志通俗演義』嘉靖本	(10-10b-4)	正色曰
『満文三国志』	(10-12a-8)	tob cira i hendume
『満漢合璧三国志』	(10-16a-5)	tob cira i hendume 正色而曰
漢文『三国志通俗演義』李卓吾本	(46-7b-5)	叱曰
『三譯総解』	(5-7b-3)	too cira i hendume 꾸짖는듯초로니로되

なお、『三譯総解』(10-23a-4-4)にも too が出現している。この too は、geli horonggo jingji too seme etenggi ofi geren jiyanggiyūn sa gemu olhombi (『満漢合璧三国志』における対応漢語は「嚴毅剛正諸將皆懼」という文脈に出現しているため、「叱る」と解釈することができない。したがって、これは tob の誤記とみるほかない。すなわち上述の可能性 (1) に該当する。この点については、岸田 (1997: 259-260) の見解を参照されたい。

⁹⁰ 王海波 (2026b: 34) の脚注 37 を参照されたい。

ts'ai 「漢語蔡」 (ts'ai dzung 「蔡中」) (ts'ai ho 「蔡和」) (ts'ai mao 「蔡瑁」)	채	(5-3b-3-5) (5-5b-4-6) (5-6b-4-1) (5-8b-6-2) (5-10a-5-1) (5-3b-3-7) (5-5b-4-8) (5-6b-4-3) (5-8b-6-4) (5-10a-5-3) (5-3b-2-2) (5-3b-2-6) (5-5b-4-2)
ts'an 「漢語參」 (ts'an jiyün 「參軍」)	찬	(5-23a-3-2)
ts'oots'oo 「漢語曹操」	초초	(5-2a-1-2) (5-2a-6-1) (5-3a-4-4) (5-4a-1-1) (5-4b-6-3) (5-6a-3-7) (5-7a-3-1) (5-7b-4-1) (5-8b-6-1) (5-12a-3-1) (5-20b-2-3) (5-22a-5-4) (5-24b-5-3)
tucibumbi 「出す」	---	---
tucibu	투치부	(5-16a-2-7)
tucibuci	투치부치	(5-1a-3-5)
tucibufi	투치부피	(5-1a-5-7) (5-14b-6-2) ⁹¹
tucibuhe	투치부허	(5-23b-1-1)
tucimbi 「出る」	투침비	(5-20a-1-6)
tucike	투치커	(5-11b-4-3) (5-14b-2-4)
tuhebumbi 「倒す；落とす；垂らす」 ⁹²	---	---
tuhebufi	투허부피	(5-17a-4-5)
tuheburakūngge	투허부라쿵거	(5-18b-5-6)
tukiyembi 「持ち上げる；担ぐ；挙用する；称揚する」	---	---
tukiyeci	투켜치	(5-18b-1-2) ⁹³
tumen 「万」	투먼	(5-11b-1-4) (5-12a-3-3)
tungken 「太鼓」	통켄	(5-11b-5-3)
turgunde 「～の原因/理由で」	톨군더	(5-8a-6-4) (5-8b-3-4) (5-14b-1-2) (5-21a-3-6)
tuttu 「そのように；あのよう に」	툏투	(5-1b-1-4) (5-3a-3-4) (5-24a-1-1) (5-24b-4-5)
tuwabumbi 「見せる；見させる；見られる」	---	---
tuwabufi	투와부치	(5-1a-6-3)
tuwambi 「見る」	투왓비	(5-14a-5-2)
tuwaci	투와치	(5-1a-4-2) (5-23b-4-4)
tuwafi	투와피	(5-24b-1-1) ⁹⁴

⁹¹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁹² tuhebu- の派生語 tuhebuku の意味について、王海波 (2026a: 25) は複数の訳語を総合したうえで「垂らされたもの」という意識に言及しているが、字義どおりには「垂らしたもの」である。

⁹³ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「투켜치」が「투켜지」のように見えるが、本来は「투켜치」と書かれていたものと考えられる。

⁹⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

tuwame	투와머	(5-7b-1-4)
	투외머 ⁹⁵	(5-19b-1-8)
tuwarakū	투와라쿠	(5-16b-4-8)
tuwanjimbi 「見に来る」	---	---
tuwanjihala	투완지하라	(5-18b-5-1)
tuwanjime	투완지머	(5-18b-6-5) (5-22b-6-1)
u 「漢語呉」 (dergi u gurun 「東呉国」) (u gurun 「呉国」) (u heo 「呉侯」)	우	(5-3a-1-3) (5-3b-5-8) (5-4a-4-2) (5-15b-2-5) (5-13b-6-5) (5-24b-2-5)
ubu 「分け前」	우부	(5-24b-1-3)
ucubumbi 「掻き混ぜさせる； 塗れる」	---	---
ucubuha	우츄부하	(5-11a-3-6)
udu 「幾つ；いくら～(だと て)」	우두	(5-2a-1-5) (5-5a-2-2) (5-5b-2-3) (5-11a-3-1) (5-12a-6-4) (5-12b-1-2) (5-13a-1-6) (5-13a- 4-4) (5-24b-6-1)
ududu 「幾つもの」	우두두	(5-18b-4-2)
ujelembi 「重んじる；重くな る」	---	---
ujeleme 「重く、強く」	우저러머	(5-4b-6-4) (5-11a-2-1) (5-20a-4-6)
ujen 「重い」	우견	(5-4b-1-8) (5-25a-5-4)
uju 「頭；第一」	우쥬	(5-14b-6-4) ⁹⁶ (5-16b-5-4)
uksin 「鎧」	옥신	(5-13b-3-1)
uksun 「宗室；宗族」	옥순	(5-3b-3-3)
ulhi 「袖」	올히	(5-19b-1-5)
ulhimbi 「悟る、理解する」	---	---
ulhihe	올히히	(5-9b-1-4) (5-20a-6-6)
ulhirakū	올히라쿠	(5-22a-6-1)
umai 「全く(～でない)」	우매	(5-5a-5-5) (5-6a-3-4) (5-23a-1-1)
ume 「否定命令標識」	우머	(5-1b-4-5) (5-4b-2-5) (5-4b-6-1) (5-7a-5-3) (5-20b-5-2)
unde 「まだ～していない」	운더	(5-25a-6-3)
undu 「縦」	운두	(5-15a-3-8)
urgunjembi 「喜ぶ」	---	---
urgunjeme	올군져머	(5-5b-6-3)
urse 「衆人」	올서	(5-14b-5-5) (5-16a-1-4) (5-17a-1-1) (5-23a- 6-7)
urunakū 「必ず」	우루나쿠	(5-2a-2-2) (5-3b-6-2) (5-9b-5-2) (5-14a-3-3) (5-22b-1-6)

⁹⁵ 原書の当該箇所では、「투와머」ではなく「투외머」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

⁹⁶ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

ušambi 「牽く ; 搔く」	---	---
ušafi	우샤피	(5-17b-1-1)
ušame	우샤머	(5-14b-6-1)
uthai 「すぐに ; 即ち」	운해	(5-8a-3-6) (5-11b-4-1) (5-17a-5-6)
uttu 「このように」	운투	(5-8a-1-2) (5-10a-4-6)
uyun 「九」	우윤	(5-24b-1-2)
wacihiyambi 「完成する、果たす」	---	---
wacihiyafi	와치하피	(5-12b-3-8)
wajimbi 「終わる」	---	---
wajifi	와지피	(5-2a-4-6)
wajinggala 「終わる前」	와징가라	(5-12b-6-2)
waka 「～ではない ; 非」	와카	(5-7a-2-5) (5-12a-6-2) (5-23b-3-4) (5-24a-3-6)
wakao 「違うか ; 悪いか」	와칸	(5-25a-3-3)
waliyambi 「捨てる ; 吐き出す ; 展墓する」	---	---
waliyafi	와랴피	(5-13b-3-3)
wambi 「殺す」	왁비	(5-14a-3-4)
wa	와	(5-15a-6-5)
wafi	와피	(5-14b-6-3)
waha	와하	(5-3b-2-5) (5-6a-4-1)
wahabi	와하비	(5-7b-4-6)
waki	와키	(5-20a-4-4)
wara	와라	(5-16a-5-2)
warakū	와라쿠	(5-14b-3-2)
wasimbi 「降りる」	---	---
wasime	와시머	(5-5a-3-6)
we 「誰」	워	(5-3a-6-6)
weihe 「齒」	웨허	(5-17b-2-3)
weile 「罪 ; 事」	웨러	(5-1b-5-7) (5-4b-1-1) (5-6a-3-5) (5-16a-4-5) (5-16b-1-5) (5-16b-3-1) (5-17a-2-1) (5-18a-4-5) (5-19a-3-4) (5-19b-6-3)
wesihun 「上に ; 東に ; 高貴な」	워시훈	(5-22b-2-5)
yabumbi 「行く、歩く ; 行う」	---	---
yabu	야부	(5-2a-4-2)
yabuci	야부치	(5-3b-1-2)
yabuha	야부하	(5-11a-6-7)
yabume	야부머	(5-15a-4-1)
yabure	야부러	(5-10b-2-2) (5-10b-4-3)
yala 「誠に、果たして」	야라	(5-21b-5-6)

yali 「肉」	야리	(5-18b-1-5) (5-20b-1-3) (5-22a-4-3) (5-24a-3-2) (5-24b-6-2)
yamji 「晚」	암지	(5-5a-5-3)
yargiyan 「本当の」	알간	(5-25a-4-4)
yasa 「目」	야사	(5-18b-5-3)
yooni 「すべて」	윤니	(5-12b-5-1)

参考文献

<日本語文献>

- 池上二良 (1951) 「満洲語の諺文文献に関する一報告」『東洋學報』33(2): 97-118.
- 池上二良 (1954) 「満洲語の諺文文献に関する一報告 (承前)」『東洋學報』36(4): 57-74.
- 池上二良 (1955) 「トゥングース語」市河三喜・服部四郎 (編)『世界言語概説 (下巻)』441-488. 東京: 研究社.
- 池上二良 (1963) 「ふたたび満洲語の諺文文献について」『朝鮮学報』26: 94-100.
- 今西春秋 (1958) 「漢清文鑑解説」『朝鮮学報』12: 21-58.
- 王海波 (2026a) 「『三譯総解 (第一)』ハンゲル表記満洲語文語索引」『KOTONOHA』278: 1-30.
- 王海波 (2026b) 「『三譯総解 (第三)』ハンゲル表記満洲語文語索引」『KOTONOHA』279: 1-40.
- 王海波 (2026c) 「『三譯総解 (第四)』ハンゲル表記満洲語文語索引」『KOTONOHA』279: 41-74.
- 小倉進平 (1914a) 「朝鮮に於ける日漢滿蒙語辭書」『朝鮮及滿洲』83: 40-46.
- 小倉進平 (1914b) 「朝鮮に於ける日・漢・滿・蒙語讀本」『東洋學報』4(2): 244-266.
- 菅野裕臣 (2005) 「朝鮮司訳院の清学書のハンゲル対音の性格について」『韓国語学年報』1: 1-8.
- 岸田文隆 (1989) 「清学書に現れた満洲語ハンゲル表記について: 特に満洲字 e に対する 2 通りのハンゲル表記をめぐって」『言語学研究』8: 17-38.
- 岸田文隆 (1997) 「『三譯總解』の満文にあらわれた特殊語形の来源」東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 田村實造・今西春秋・佐藤長 (1966-1968) 『五體清文鑑譯解』京都: 京都大學文學部内陸アジア研究所.
- 羽田亨 (1937) 『滿和辭典』京都: 京都帝國大學滿蒙古調査會.
- 早田輝洋 (1988) 「満洲語文語における或る単語の単数と複数について: 『満文金瓶梅』の asihan と asihata」『九大言語学研究室報告』9: 1-17.
- 早田輝洋 (1993) 「満洲語文語における「取りに (連れに) 来る」を意味する動詞について: 『満文金瓶梅』を資料として」『文學研究』90: 89-130.
- 福田昆之 (2008) 『増訂満洲語文語辞典』横浜: FLL.
- 和田景子 (2013) 「『漢清文鑑』における満洲語のハンゲル表記: 特に満洲語の文字連続 CVwV を中心に」寺村政男 (編)『大東文化大学日本語学科 20 周年記念論文集』244-255. 東京: 大東文化大学日本語学科.
- 綿貫哲郎・兒倉徳和・加藤基嗣・相原佳之・高井秀招・半田真士・神谷秀二・池田修太郎 (訳編) (2023) 『内国史院檔: 順治元年 I・II 合冊本』東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ研究所.

<韓国語文献>

- 高麗語言研究院(2006)『朝鮮語古語詞典』牡丹江: 黑龍江朝鮮民族出版社.

- 김주원(1990) 「만주어 모음체계의 변천에 대하여」 『알타이학보』 2: 1-26.
- 南廣祐(1997) 『敎學 古語辭典』 서울: 교학사.
- 두산동아 사서편집국(1994) 『동아 프라임 韓日辭典』 서울: 두산동아.
- 성백인(1984) 「譯學書에 나타난 訓民正音 使用: 司譯院 淸學書의 만주어 한글 표기에 대하여」 『한국문화』 5: 21-63.
- 邵磊(2011) 「『漢淸文鑑』을 통해 본 滿文의 한글表記法」 『中韓文化關係國際學術會議論文集』 290-308.

< 中国語文献 >

- 崔宰宇 (1997) 「『漢淸文鑑』의 編排體例和 語音轉寫」 『中央民族大學學報 (社會科學版)』 1997(3): 82-89.
- 馮明珠 (主編) (2006a) 『滿文原檔 (第一冊)』 台北: 沈香亭企業社.
- 馮明珠 (主編) (2006b) 『滿文原檔 (第二冊)』 台北: 沈香亭企業社.
- 馮明珠 (主編) (2006c) 『滿文原檔 (第九冊)』 台北: 沈香亭企業社.
- 金東昭 (1990[1977]) 「《龍飛御天歌》女真詞彙研究」 金東昭 (著)·黃有福 (譯) 『女真語、滿語研究』 85-103. 北京: 新世界出版社. 初出: 『國語教育研究』 9: 91-105.
- 邵磊 (2016) 「淸-朝鮮時期漢·滿·韓互譯中的文字對音: 以『漢淸文鑑』滿文的韓文表記法為例」 『編譯論叢』 9(2): 57-92.
- 邵磊·多麗梅 (2022) 「海外中國典籍的多語轉寫研究: 以『淸語老乞大』漢語-滿文的朝鮮文轉寫為例」 『東方語言學』 2022(2): 17-25.
- 邵磊·多麗梅 (2023) 「『三譯總解』滿文的朝鮮文轉寫研究」 『滿學研究』 2023: 195-204.
- 邵磊·金龍軍 (2022) 「清代滿朝對音文獻中的特殊轉寫: 以滿文-w 系復元音的朝鮮文轉寫為中心」 『民族翻譯』 2022(4): 77-86.
- 邵磊·林茶英 (2022) 「論朝鮮淸學書滿朝對音中的音節對稱與不對稱」 『滿語研究』 2022(2): 69-74.
- 邵磊·任國俊 (2023) 「淸學書中的朝鮮文『圈點字』研究」 『民族翻譯』 2023(3): 78-88.
- 邵磊·王敵非 (2022) 「『淸語老乞大』滿文的朝鮮文轉寫研究」 『滿族研究』 2022(2): 89-95.
- 王敵非 (2013) 「『淸語老乞大』滿朝對音研究」 『黑龍江民族叢刊』 2013(6): 155-158.
- 中國第一歷史檔案館 (整理編譯) (2009) 『內閣藏本滿文老檔 第五函 太祖朝 第三十二冊至第四十二冊』 瀋陽: 遼寧民族出版社.

< 英語·ドイツ語文献 >

- Hauer, Erich. (2007) *Handwörterbuch der Mandschusprache, 2., durchgesehene und erweiterte Auflage herausgegeben von Oliver Corff*. Wiesbaden: Harrassowitz.
- Ikegami, Jiro. (1990) Significance of Korean materials in the study of Manchu. *Altai Hakpo*. 2: 71-77.
- Lie, Hiu. (1972) *Die Mandschu-Sprachkunde in Korea*. Bloomington: Indiana University.

< ロシア語文献 >

- Захаров, И.И. (1875) *Полный Маньчжурско-Русский Словарь*. СПб.: Типография Императорской Академии Наукъ.

An Index to the Written Manchu Words Transcribed in Hangul
in the Fifth Volume of *Sam-yŏk Ch'ong-hae*

Haibo WANG
(Lingnan Normal University)

Keywords: *Sam-yŏk Ch'ong-hae*, Hangul Transcription, Written Manchu

Sam-yŏk Ch'ong-hae is one of the books compiled by the Bureau of Interpreters during the Joseon Dynasty in Korea. In this work, Written Manchu words were recorded in both the Manchu script and the Hangul transcription. Notably, the Hangul transcriptions do not always correspond directly to their Manchu script counterparts, suggesting that they may reflect phonetic nuances not fully represented in the Manchu script. This paper presents a Möllendorff-transcription-based index of Written Manchu words found in the fifth volume of *Sam-yŏk Ch'ong-hae*. By aligning the Hangul transcriptions with their equivalents in the Manchu script (represented in Möllendorff transcription), the index serves as a practical reference for exploring script correspondences and phonological details of Written Manchu.

(おう・かいは boljon@163.com)